



periodic-report interval through pulse-digit-detection

- 定期レポートの間隔 (3 ページ)
- permit hostname (SIP) (5 ページ)
- phone context (6 ページ)
- 電話番号 (8 ページ)
- 電話プロキシ(ダイヤルピア) (10 ページ)
- pickup direct (11 ページ)
- ピックアップグループ (13 ページ)
- pickup local (15 ページ)
- playout-delay (dial peer) (17 ページ)
- playout-delay (voice-port) (22 ページ)
- playout-delay mode (dial-peer) (25 ページ)
- 再生遅延モード(音声ポート) (27 ページ)
- police profile (29 ページ)
- ポート (Annex G 近隣 BE) (30 ページ)
- ポート (ダイヤルピア) (32 ページ)
- port (MGCP profile) (35 ページ)
- ポート (補足サービス) (37 ページ)
- port media (38 ページ)
- port-range (39 ページ)
- ポートシグナル (40 ページ)
- pots call-waiting (41 ページ)
- pots country (42 ページ)
- pots dialing-method (44 ページ)
- pots disconnect-supervision (46 ページ)
- pots disconnect-time (48 ページ)
- pots distinctive-ring-guard-time (50 ページ)
- pots encoding (52 ページ)
- pots forwarding-method (54 ページ)

- pots line-type (56 ページ)
- pots prefix filter (58 ページ)
- pots prefix number (60 ページ)
- pots ringing-freq (62 ページ)
- pots silence-time (64 ページ)
- pots tone-source (66 ページ)
- ダイヤル前遅延 (68 ページ)
- preference (dial-peer) (69 ページ)
- preemption enable (72 ページ)
- プリエンプションガードタイマー (73 ページ)
- preemption level (74 ページ)
- preemption tone timer (76 ページ)
- プレフィックス (77 ページ)
- プレフィックス (付録 G) (79 ページ)
- プレフィックス (stcapp-fac) (81 ページ)
- プレフィックス (stcapp-fsd) (83 ページ)
- preloaded-route (85 ページ)
- プレゼンス (87 ページ)
- presence call-list (89 ページ)
- presence enable (91 ページ)
- pri-group (pri-slt) (93 ページ)
- pri-group nec-fusion (96 ページ)
- pri-group タイムスロット (98 ページ)
- プライマリ (ゲートウェイ会計ファイル) (104 ページ)
- プライバシー (106 ページ)
- プライバシー (補足サービス) (109 ページ)
- privacy-policy (110 ページ)
- probing interval (113 ページ)
- probing max-failures (115 ページ)
- progress_ind (116 ページ)
- プロトコルモード (119 ページ)
- プロトコル rlm ポート (121 ページ)
- プロバイダ (123 ページ)
- プロキシ h323 (125 ページ)
- プロキシ (メディアプロファイル) (126 ページ)
- パルス桁検出 (128 ページ)

定期レポートの間隔

ゲートウェイリソースエンティティの定期的なレポートのパラメータを設定するには、音声クラス設定モードで **定期レポート間隔** コマンドを使用します。定期的なレポートのパラメータ設定を無効にするには、このコマンドの **無** 形式を使用します。

periodic-reportinterval秒
いいえ定期レポート間隔秒

構文の説明

秒	定期的な間隔 (秒単位) の説明。 値の範囲は 30 ~ 21600 です。
---	--

コマンドデフォルト

定期間隔レポートのパラメータが無効になります。

コマンドモード

音声クラス コンフィギュレーション モード (config-class)

コマンド履歴

リリース	変更
15.1(2)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

periodic-reportinterval コマンドを使用して、リソースの監視状況を外部エンティティに定期的にレポートします。トリガーは、事前に設定された間隔の値に基づいて行われます。このレポート方法で収集された統計を使用してください。

例

次の例は、180 秒ごとにレポートをトリガーするようにリソース グループを構成する方法を示しています。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# voice class resource-group 1
Router(config-class)# periodic-report interval 180
```

関連コマンド

コマンド	説明
debugrai	リソース割り当て表示 (RAI) のデバッグを有効にします。
raitarget	SIP RAI メカニズムを設定します。
リソース(音声)	リソースを監視するためのパラメータを設定するには、音声クラス設定モードで resource コマンドを使用します。
showvoiceclassresource-group	特定のリソースグループまたはすべてのリソースグループの構成情報を表示します。

コマンド	説明
voiceclass リソースグループ	音声クラスコンフィギュレーションモードを開始し、リソースグループの ID タグ番号を割り当てます。

permit hostname (SIP)

最初の着信 INVITE メッセージの検証中に使用されるホスト名を保存するには、SIP-UA コンフィギュレーションモードまたは音声クラステナントコンフィギュレーションモードで、**permit hostname** コマンドを使用します。保存されているホスト名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

permit hostname dns:domain-name

いいえ permit ホスト名

構文の説明

dns:domain-name	DNS 形式のドメイン名。ドメイン名の長さは 30 文字までです。30 文字を超えるドメイン名は切り詰められます。
------------------------	---

コマンドモード

SIP-UA 構成

音声クラス テナント構成 (config-class)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(9)T	このコマンドが導入されました。
15.6(2)T および IOS XE デナリ 16.3.1	このコマンドが音声クラス テナントで利用できるようになりました。
Cisco IOS XE ダブリン 17.10.1a	Yang モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン

permithostname コマンドを使用すると、FQDN (完全修飾ドメイン名) 形式のホスト名を指定し、受信する最初の INVITE メッセージの検証中に使用することができます。ホスト名の長さは 30 文字までです。30 文字を超えるホスト名は切り詰められます。**permithostname** コマンドを繰り返すことで、ホスト名を最大 10 件保存できます。

構成されると、要求された Universal Resource Identifier (URI) 中のホスト名を持つ最初の INVITE が、構成されたホスト名のリストと比較されます。一致する場合、INVITE が処理されます。一致しない場合、「400 不正な要求 - 無効なホスト」が送信され、呼び出しが拒否されます。



- (注) ソフトウェア リリース 12.4(9)T より前では、着信 INVITE 要求メッセージのホスト名は、IPv4 形式の場合にのみ検証されました。完全修飾ドメイン名 (FQDN) 形式でホスト名を指定できるようになりました。

例

次の例では、ホスト名を sip.example.com に設定する方法を示します:

```
Router(config)# sip-ua
Router(conf-sip-ua)# permit hostname dns:sip.example.com
```


コマンド	説明
着信URI	VoIP ダイアルピアを着信呼び出しの URI と照合するために使用される音声クラスを指定します。
パターン	SIP または TEL URI 全体に基づいて通話を照合します。
電話番号	TEL URI の電話番号フィールドに基づいて通話を照合します。
showdialplanincalluri	着信音声通話の特定のURIに一致するダイアルピア (dial peer) を表示します。
showdialplanuri	特定の宛先 URI に一致する発信ダイアルピアを表示します。
ユーザ ID	SIP URI のユーザ ID フィールドに基づいて通話を照合します。
voiceclassuri	SIP または TEL URI を含むコールにダイアルピアを照合するための音声クラスを作成または変更します。

電話番号

電話 (TEL) URI (Uniform Resource Identifier) の電話番号フィールドに基づいて発信を照合するには、**phonenumber** コマンドを使用します。音声 URI クラスの設定モードで使用します。パターンを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

phonenumber 電話番号パターン
 いいえ **phonenumber**

構文の説明	電話番号パターン	TEL URI の電話番号フィールドと照合する Cisco IOS 正規表現パターン。最大 32 文字です。
-------	----------	--

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード 音声 URI クラスの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

- このコマンドは TEL URI の音声クラスでのみ使用します。
- 音声クラスで **pattern** コマンドを使用する場合、このコマンドは使用できません。 **pattern** コマンドは URI 全体にマッチしますが、このコマンドは特定のフィールドにのみマッチします。

例

次の例では、TEL URI の電話番号フィールドで一致する音声クラスを定義しています。

```
voice class uri r101 tel
  phone number ^408
```

関連コマンド	コマンド	説明
	debugvoiceuri	URI 音声クラスに関連するデバッグ メッセージを表示します。
	destinationuri	音声アプリケーションにより提供される宛先 URI との照合に使用する音声クラスを指定します。
	着信 URI	VoIP ダイアルピアを着信呼び出しの URI と照合するために使用される音声クラスを指定します。
	パターン	SIP または TEL URI 全体に基づいて通話を照合します。

コマンド	説明
電話コンテキスト	設定されたパターンに一致する phone-context フィールドを含まない URI をフィルタリングします。
voiceクラスuri	SIP または TEL URI を含むコールにダイヤル ピアを照合するための音声クラスを作成または変更します。

電話プロキシ(ダイヤルピア)

関連するダイヤルピアにフォンプロキシを設定するには、ダイヤルピア設定モードで **phone-proxy** コマンドを使用します。関連するダイヤルピアのフォンプロキシを削除するには、**no** 形式でコマンドを使用します。

phone-proxy 電話プロキシ名 **signal-addr ipv4IPv4** アドレス **cucm ipv4IPv4** アドレス

構文の説明	電話プロキシ名	特定の Phone Proxy の名前です。
	signal-addr ipv4ipv4-address	アクセス側の SIP シグナル IPv4 アドレスを指定します。
	cucm ipv4ipv4-address	コールマネージャサーバの IPv4 アドレスを指定します。

コマンドモード ダイヤルピア構成 (config-dial-peer)

コマンド履歴

```
リリー 変更
ス
15.3(3)M このコマンドが導入されました。
```

使用上のガイドライン

例

次に、関連するダイヤルピアにフォンプロキシを設定する例を示します。

```
Device(config)# dial-peer voice 1 voip
Device(config-dial-peer)# phone-proxy pp signal-addr ipv4 10.0.0.8 cucm ipv4 198.51.100.1
```

pickup direct

アナログ電話からグピックアップダイレクトにアクセスするための機能アクセスコード (FAC) の機能コードを定義するには、STCアプリケーション機能アクセスコード設定モードで **pickupdirect** コマンドを使用します。コードをデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

pickup直接 キーパッド文字
いいえpickup直接

構文の説明

キーパッド文字	<p>電話のキーパッドでダイヤルできる文字列 (0-9、*、#)。デフォルト: 6。</p> <p>Cisco IOS Release 12.4(20)YA より前では、これは一文字です。Cisco IOS Release 12.4(20)YA 以降のリリースでは、文字列は次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 文字 (0-9、*、#) • 2 桁の数字 (00-99) • 2-4 文字 (0-9、*、#) の先頭または末尾の文字はアスタリスク (*) または シャープ (#) でなければなりません
---------	---

コマンド デフォルト

デフォルト値は 6 です。

コマンド モード

STC アプリケーション機能アクセスコード設定 (config-stcapp-fac)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(2)T	このコマンドが導入されました。
12.4(20)YA	<i>keypad-character</i> 引数の長さが 1 から 4 文字に変更されました。
12.4(22)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(22)T に統合されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、ピックアップダイレクトの機能コードの値をデフォルトの (6) から指定された値に変更します。

Cisco IOS Release 12.4(20)YA およびそれ以降のリリースでは、*keypad-character* 引数の長さが少なくとも 2 文字で、文字列の先頭または末尾の文字がアスタリスク (*) または シャープ (#) である場合、電話ユーザはこの機能にアクセスするためにプレフィックスをダイヤルする必要はありません。通常、電話ユーザは **6 のように、プレフィックスと機能コードで構成される機能アクセスコード (FAC) をダイヤルします。機能コードが 78# の場合、電話ユーザは、FAC プレフィックスなしで 78# のみをダイヤルして、対応する機能にアクセスします。

Cisco IOS Release 12.4(20)YA 以降のリリースでは、別の機能コード、スピードダイヤルコード、またはリダイヤル FSD ですすでに設定されている値でこのコマンドを設定しようとすると、

メッセージを受信します。重複するコードを設定する場合、システムは、**showstcappfeaturecodes** コマンドの出力に示される優先順位の順序で最初に一致する機能を実装します。

Cisco IOS Release 12.4(20)YA 以降のリリースでは、排除する値、または別の FAC、スピードダイヤルコード、またはリダイヤル FSD によって排除される値でこのコマンドを設定しようとすると、メッセージを受信します。機能コードを排除する、または他のコードによって排除される値に設定した場合、システムは常に最も短いコードのコール機能を実行し、長いコードは無視します。例えば、#1 は常に #12 と #123 を優先します。電話ユーザがその機能にアクセスできるように、排除されたコードに新しい値を設定する必要があります。

すべての FAC のリストを表示するには、**showstcappfeaturecodes** コマンドを使用します。



(注) この FAC は Cisco Unified Communications Manager ではサポートされていません。

例

次の例は、Pickup Direct の機能コードの値をデフォルト (6) から変更する方法を示しています。また、この設定により、すべての FAC のプレフィックスがデフォルト (**) から ## に変更されます。この構成では、電話ユーザはキーパッドの ##3 を押してから、呼び出し中の内線番号を押して、着信コールを取る。

```
Router(config)# stcapp feature access-code
Router(config-stcapp-fac) # prefix ##
Router(config-stcapp-fac) # pickup direct 3
Router(config-stcapp-fac) # exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
ピックアップグループ	別のグループからのグループコールピックアップへの機能アクセスコード (FAC) の機能コードを定義します。
ローカルピックアップ	ローカルグループからのグループコールピックアップへの機能アクセスコード (FAC) の機能コードを定義します。
プレフィックス (stcapp-fac)	機能アクセスコード (FAC) のプレフィックスを定義します。
showstcappfeaturecodes	すべての機能アクセスコード (FAC) を表示します。
stcappfeatureaccess-code	STC アプリケーションで機能アクセスコード (FAC) を有効にし、STC アプリケーション機能アクセスコードコンフィギュレーションモードを開始して、デフォルトからプレフィックスと機能コードの値を変更します。

ピックアップグループ

アナログ電話からグループ通話ピックアップにアクセスするための機能アクセスコード (FAC) の機能コードを定義するには、STCアプリケーション機能アクセスコード設定モードで **ピックアップグループ** コマンドを使用します。コードをデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

pickup グループ キーパッド文字
いいえ **pickup** グループ

構文の説明	<p>キーパッド文字</p> <p>電話のキーパッドでダイヤルできる文字列 (0-9、*、#)。デフォルト: 4。</p> <p>Cisco IOS Release 12.4(20)YA より前では、これは一文字です。Cisco IOS Release 12.4(20)YA 以降のリリースでは、文字列は次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 文字 (0-9、*、#) • 2 桁の数字 (00-99) • 2-4 文字 (0-9、*、#) の先頭または末尾の文字はアスタリスク (*) または シャープ (#) でなければなりません
-------	--

コマンド デフォルト デフォルト値は 4 です。

コマンド モード STC アプリケーション機能アクセスコード設定 (config-stcapp-fac)

コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12.4(2)T</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> <tr> <td>12.4(20)YA</td> <td><i>keypad-character</i> 引数の長さが 1 から 4 文字に変更されました。</td> </tr> <tr> <td>12.4(22)T</td> <td>このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(22)T に統合されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更	12.4(2)T	このコマンドが導入されました。	12.4(20)YA	<i>keypad-character</i> 引数の長さが 1 から 4 文字に変更されました。	12.4(22)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(22)T に統合されました。
リリース	変更								
12.4(2)T	このコマンドが導入されました。								
12.4(20)YA	<i>keypad-character</i> 引数の長さが 1 から 4 文字に変更されました。								
12.4(22)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(22)T に統合されました。								

使用上のガイドライン このコマンドは、ピックアップダイレクトの機能コードの値をデフォルトの (4) から指定された値に変更します。

Cisco IOS Release 12.4(20)YA およびそれ以降のリリースでは、*keypad-character* 引数の長さが少なくとも 2 文字で、文字列の先頭または末尾の文字がアスタリスク (*) または シャープ (#) である場合、電話ユーザはこの機能にアクセスするためにプレフィックスをダイヤルする必要はありません。通常、電話ユーザは **4 のように、プレフィックスと機能コードで構成される特殊機能アクセスコード (FAC) をダイヤルします。機能コードが 78# の場合、電話ユーザは、FAC プレフィックスなしで 78# のみをダイヤルして、対応する機能にアクセスします。

Cisco IOS Release 12.4(20)YA 以降のリリースでは、別の機能コード、スピードダイヤルコード、またはリダイヤル FSD ですでに設定されている値でこのコマンドを設定しようとすると、

メッセージを受信します。重複するコードを設定する場合、システムは、**showstcappfeaturecodes** コマンドの出力に示される優先順位の順序で最初に一致する機能を実装します。

Cisco IOS Release 12.4(20)YA 以降のリリースでは、排除する値、または別の機能コード、スピードダイヤルコード、またはリダイヤル FSD によって排除される値でこのコマンドを設定しようとする、メッセージを受信します。機能コードを排除する、または他のコードによって排除される値に設定した場合、システムは常に最も短いコードのコール機能を実行し、長いコードは無視します。例えば、#1 は常に #12 と #123 を優先します。電話ユーザがその機能にアクセスできるように、排除されたコードに新しい値を設定する必要があります。

すべての FAC のリストを表示するには、**showstcappfeaturecodes** コマンドを使用します。

例

次の例では、ピックアップダイレクトの機能コードの値をデフォルト (4) から変更する方法を示します。また、この設定により、すべての FAC のプレフィックスがデフォルト (**) から ## に変更されます。これらの値を設定した後、電話ユーザはキーパッドの ##3 を押してから、呼び出し中の内線番号のピックアップグループ番号を押して、着信を取る。

```
Router(config)# stcapp feature access-code
Router(config-stcapp-fac)# prefix ##
Router(config-stcapp-fac)# pickup direct 3
Router(config-stcapp-fac)# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
ピックアップ直通	呼び出し中の内線番号のダイレクトコールピックアップ用の Feature Access Code (FAC) の機能コードを定義します。
ローカルピックアップ	ローカルグループからの着信にピックアップするグループ通話ピックアップの Feature Access Code (FAC) の機能コードを定義します。
prefix(stcapp-fac)	機能アクセスコード (FAC) のプレフィックスを定義します。
showstcappfeaturecodes	すべての機能アクセスコード (FAC) を表示します。
stcappfeatureaccess-code	機能アクセスコード (FAC) を有効にし、STC アプリケーション機能アクセスコードコンフィギュレーションモードを開始して、デフォルトからプレフィックスと機能コードの値を変更します。

pickup local

アナログ電話からグループ通話ピックアップにアクセスするための機能アクセスコード (FAC) の機能コードを定義するには、STCアプリケーション機能アクセスコード設定モードで **ピックアップグループ** コマンドを使用します。コードをデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

pickup ローカル キーパッド文字
いいえ pickup ローカル

構文の説明	<p><i>keypad-character</i> 電話のキーパッドでダイヤルできる文字列。デフォルト: 3。</p> <p>Cisco IOS Release 12.4(20)YA より前では、これは一文字です。Cisco IOS Release 12.5(20)YA 以降のリリースでは、次のいずれかの文字列になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 文字 (0-9、*、#) • 2 桁の数字 (00-99) • 2-4 文字 (0-9、*、#) の先頭または末尾の文字はアスタリスク (*) または シャープ (#) でなければなりません
-------	---

コマンド デフォルト デフォルト値は 3 です。

コマンド モード STC アプリケーション機能アクセスコード設定 (config-stcapp-fac)

コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12.4(2)T</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> <tr> <td>12.4(20)YA</td> <td><i>keypad-character</i> 引数の長さが 1 から 4 文字に変更されました。</td> </tr> <tr> <td>12.4(22)T</td> <td>このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(22)T に統合されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更	12.4(2)T	このコマンドが導入されました。	12.4(20)YA	<i>keypad-character</i> 引数の長さが 1 から 4 文字に変更されました。	12.4(22)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(22)T に統合されました。
リリース	変更								
12.4(2)T	このコマンドが導入されました。								
12.4(20)YA	<i>keypad-character</i> 引数の長さが 1 から 4 文字に変更されました。								
12.4(22)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(22)T に統合されました。								

使用上のガイドライン このコマンドは、ローカルグループピックアップの機能コードの値をデフォルトの (3) から指定された値に変更します。

Cisco IOS Release 12.4(20)YA およびそれ以降のリリースでは、*keypad-character* 引数の長さが少なくとも 2 文字で、文字列の先頭または末尾の文字がアスタリスク (*) または シャープ (#) である場合、電話ユーザはこの機能にアクセスするためにプレフィックスをダイヤルする必要はありません。通常、電話ユーザは **3 のように、プレフィックスと機能コードで構成される特殊機能アクセスコード (FAC) をダイヤルします。機能コードが 78# の場合、電話ユーザは、FAC プレフィックスなしで 78# のみをダイヤルして、対応する機能にアクセスします。

Cisco IOS Release 12.4(20)YA 以降のリリースでは、別の機能コード、スピードダイヤルコード、またはリダイヤル FSD にすでに設定されている値を使ってこのコマンドを設定しようと

すると、メッセージが表示されます。重複するコードを設定する場合、システムは、**showstcappfeaturecodes** コマンドの出力に示される優先順位の順序で最初に一致する機能を実装します。

Cisco IOS Release 12.4(20)YA 以降のリリースでは、排除する値、または別の機能コード、スピードダイヤルコード、またはリダイヤル FSD によって排除される値でこのコマンドを設定しようとする、メッセージを受信します。機能コードを排除する、または他のコードによって排除される値に設定した場合、システムは常に最も短いコードのコール機能を実行し、長いコードは無視します。例えば、#1 は常に #12 と #123 を優先します。電話ユーザがその機能にアクセスできるように、排除されたコードに新しい値を設定する必要があります。

すべての FAC のリストを表示するには、**showstcappfeaturecodes** コマンドを使用します。

例

次の例では、ピックアップダイレクトの機能コードの値をデフォルト (3) から変更する方法を示します。また、この設定により、すべての FAC のプレフィックスがデフォルト (**) から ## に変更されます。この設定では、電話ユーザは、キーパッドの ##9 を押して、この内線番号と同じグループの着信コールに応答する必要があります。

```
Router(config)# stcapp feature access-code
Router(config-stcapp-fac)# prefix ##
Router(config-stcapp-fac)# pickup local 9
Router(config-stcapp-fac)# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
ピックアップ直通	呼び出し中の内線番号のダイレクトコールピックアップ用の Feature Access Code (FAC) の機能コードを定義します。
ピックアップグループ	グループ通話ピックアップが別のグループからの着信通話に応答するための機能アクセスコード (FAC) の機能コードを定義します。
プレフィックス (stcapp-fac)	機能アクセスコード (FAC) のプレフィックスを定義します。
showstcappfeaturecodes	すべての機能アクセスコード (FAC) を表示します。
stcappfeatureaccess-code	STC アプリケーションの機能アクセスコード FAC を有効にし、STC アプリケーション機能アクセスコードコンフィギュレーションモードを開始して、デフォルトからプレフィックスと機能コードの値を変更します。

playout-delay (dial peer)

デジタルシグナルプロセッサ (DSP) のプレイアウトバッファを WAN のスイッチによって引き起こされるパケットジッターに対応できるように調整するには、**playout-delay** コマンドをダイヤルピア設定モードで使用します。再生バッファをデフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

再生遅延 {ファクスミリ秒|最大ミリ秒|最小 {default|low|high}|nominalミリ秒}

いいえ再生遅延 {fax|maximum|minimum|nominal}

構文の説明

fax <i>milliseconds</i>	ジッターバッファがファックスコールに適用する再生遅延の量をミリ秒で指定します。値の範囲は 0 ~ 700 です。デフォルトは 300 です。
maximum <i>milliseconds</i>	(適応モードのみ)ジッターバッファの上限、または適応遅延に設定されている最高値 (ミリ秒単位)。 範囲は 40 から 1700 ですが、この値は DSP のタイプと、音声カードのコーデック複雑度の設定によって異なります。(コーデック複雑性コマンドを参照。)デフォルトは 200 です。 音声カードが高コーデック複雑度設定されている場合、圧縮コーデックの maximum の上限値は 250 ms です。中複雑度のコーデック設定では、最大の maximum 値は 150 ms です。 音声カード複雑度設定をサポートしない音声ハードウェア (例 : Cisco 3600 シリーズルータのアナログ音声モジュール) の上限は 200 ms です。
最小	(適応モードのみ)ジッターバッファの下限、または適応遅延が設定されている最小値 (ミリ秒単位)。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • default--40 ms。ネットワークに通常のジッター状態がある場合に使用します。これはデフォルトです。 • low--10 ms。ネットワークのジッター状態が低い場合に使用します。 • high--40 ms。ネットワークのジッター状態が高い場合に使用します。

公称ミリ秒	<p>ゲートウェイのジッターバッファにより、コールの開始時に適用される再生遅延の量(ミリ秒単位)。固定モードでは、これは通話中のジッターバッファの最大サイズでもあります。</p> <p>範囲は 0 から 1500 ですが、この値は DSP のタイプと、音声カードのコーデック複雑度の設定によって異なります。デフォルトは60です。</p> <p>電話会議以外の通話で DSPware バージョン 4.1.33 以降を使用している場合、次の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音声カードが高コーデック複雑度に設定されている場合、圧縮コーデックの nominal キーワードに設定できる最高値は 200 ms です。 中複雑度のコーデック設定の場合、最高公称値は 150 ms です。
公称ミリ秒(続き)	<p>電話会議の場合、DSPware バージョン 4.1.33 以降を使用している場合、次の値を指定できます:</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初のデコーダストリームには、200 ms (高複雑度コーデック) または 150 ms (中複雑度コーデック) の公称値を割り当てることができます。 後続のデコーダストリームは、150 ms (高複雑度) または 80 ms (中複雑度) の最高公称値に制限されます。 <p>再生遅延モードが固定動作に設定され、予想されるジッターバッファサイズに公称値が設定されている場合、プレイアウト遅延の最小実効値は、使用中のコーデックと設定された最小値によって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> playout-delayminimumlow が設定されている場合でも、実際のジッターバッファの最小サイズは 30ms になります。公称値を30ミリ秒未満に設定しても。 playout-delayminimumdefault の場合、固定モードで実行中の最小ジッターバッファサイズは 60ms になります。 <p>固定モードが設定されている場合、G.729を使用すると公称値に10ミリ秒が追加され、G.711を使用すると5ミリ秒が追加されます。</p> <p>音声カード複雑度の設定をサポートしない音声ハードウェア (Cisco 3600 シリーズ ルータのアナログ音声モジュールなど) の上限は、最初のデコーダストリームで 200 ms、後続のデコーダストリームで 150 ms です。</p> <p>(注)</p> <p>4.1.33 より前の DSPware バージョンでは、構成可能な最大の公称値は、高複雑度コーデック構成およびアナログモジュールで 150 ms です。中複雑度のコーデック設定での最高公称値は 80 ms です。</p>

コマンドデフォルト **fax--300** ミリ秒 **maximum--200** ミリ秒 **minimum--**デフォルト (40 ミリ秒) **nominal--60** ミリ秒

コマンドモード

ダイヤル ピア構成 (config-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更
11.3(1)MA	このコマンドが Cisco MC3810 に導入されました。
12.0(7)XK	このコマンドが Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズに実装されました。
12.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(2)T に統合されました。
12.1(3)XI	このコマンドが Cisco ICS7750 に実装されました。
12.1(5)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(5)T に統合されました。ダイヤルピア構成モードのサポートが次のプラットフォームで追加されました: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 7200 シリーズ、Cisco MC3810、Cisco AS5200、Cisco AS5300、Cisco AS5400、および Cisco AS5800。 minimum キーワードが導入されました。
12.2(13)T	fax キーワードが追加されました。
12.2(13)T8	DSPware バージョン 4.1.33 が実装されました。

使用上のガイドライン

Cisco IOS Release 12.1(5)T 以前は、このコマンドは音声ポート設定モードで使用されていました。Cisco IOS Release 12.1(5)T およびそれ以降のリリースでは、ほとんどの場合、再生遅延は、発信される音声トラフィックの受信側である、Voice over IP (VoIP) ダイヤルピアのダイヤルピア コンフィギュレーション モードで設定する必要があります。このダイヤルピアはネットワーク状態を検知し、必要に応じてジッターバッファを調整する DSP にそれらを取り扱います。複数のアプリケーションがゲートウェイで設定されるとき、再生遅延はダイヤルピア設定モードで設定される必要があります。設定するダイヤルピアの数が多い場合、音声ポートのプレイアウト遅延を設定する方が簡単な場合があります。競合する再生遅延値が音声ポートとダイヤルピアで設定されている場合、ダイヤルピア設定が優先されます。

再生遅延は、音声パケットが DSP のジッターバッファで受信されてから、コーデックに再生されるまでの時間です。通常のジッター状態を持つほとんどのネットワークでは、デフォルト設定で十分であるため、このコマンドを設定する必要はありません。

ジッターを減らして音声品質を改善したい場合、またはネットワーク遅延を減らしたい場合、**playout-delay** パラメータを設定できます。パラメータは、適応と固定の2つの再生遅延モードでわずかに異なります (**playout-delaymode** コマンドを参照)。

適応モードでは、音声パケットの平均遅延は、コールの進行に伴うパケットの着信変動の量に応じて変動します。ジッターバッファは、ジッターを補償し、音声パケットの円滑な再生を維持するために、設定された最大および最小制限内で拡大および縮小します。最大値は、適応型遅延が設定される最高値を確立します。最小制限は、アダプティブジッターバッファによる着信パケットの遅延の下限しきい値です。ジッターバッファの成長と縮小を制御する DSP のアルゴリズムは、ネットワーク遅延を犠牲にして、音声品質の改善に向けて重み付けされま

す。ジッターバッファサイズは、ネットワーク伝送のスパイクに反応して急速に増加し、輻輳の緩和に反応してゆっくりと減少します。

固定モードでは、公称値はゲートウェイのジッターバッファによって通話の開始時に適用される再生遅延の量であり、通話中のジッターバッファの最大サイズでもあります。

原則として、デフォルトのプレイアウト遅延設定でジッターが原因で過度に音声途切れる場合、プレイアウト遅延時間を増やします。ネットワークが小さく、ジッターが最小の場合、プレイアウト遅延時間を減らして全体の遅延を小さくします。

ネットワークに突発的なジッターがある場合、ジッターバッファが実際には再生遅延を正確に調整していても、音声品質が劣化する可能性があります。不安定なネットワーク状態に合わせて再生遅延を常に再調整することで生じる音声品質の問題は、通常、適応モードで再生遅延の最小値を大きくするか、固定モードで遅延の公称値を大きくすることで問題は解決します。

showcallactivevoice コマンドを使用して、現在の遅延と同様に通話中の遅延の最高水点と最低水点を表示します。ジッターの問題のサイズを判断するのに役立つ他のフィールドには、**ReceiveDelay**、**GapFillWith...**、**LostPackets**、**EarlyPackets**、**LatePackets** があります。

showcallactivevoice コマンドの出力例を次に示します:

```

VOIP:
ConnectionId[0xECDE2E7B 0xF46A003F 0x0 0x47070A4]
IncomingConnectionId[0xECDE2E7B 0xF46A003F 0x0 0x47070A4]
RemoteIPAddress=192.168.100.101
RemoteUDPPort=18834
RoundTripDelay=26 ms
SelectedQoS=best-effort
tx_DtmfRelay=inband-voice
FastConnect=TRUE
Separate H245 Connection=FALSE
H245 Tunneling=FALSE
SessionProtocol=cisco
SessionTarget=
OnTimeRvPlayout=417000
GapFillWithSilence=850 ms
GapFillWithPrediction=2590 ms
GapFillWithInterpolation=0 ms
GapFillWithRedundancy=0 ms
HiWaterPlayoutDelay=70 ms
LoWaterPlayoutDelay=29 ms
ReceiveDelay=39 ms
LostPackets=0
EarlyPackets=0
LatePackets=86

```

例

次の例では、VoIP ダイアルピア 80 で、最小再生遅延 10 ms、最大再生遅延 60 ms のデフォルトの適応モードを使用します。ジッターバッファのサイズは、DSPが検出するジッターの量に基づいて上下に調整されますが、10 msより小さくなることはなく、60 msより大きくなることはありません。

```

dial-peer 80 voip
  playout-delay minimum low
  playout-delay maximum 60

```

関連コマンド

コマンド	説明
コーデック複雑度	使用しているコーデック標準に基づいて、通話の密度とコーデックの複雑度を指定します。
playout-delay (voice-port)	WAN 内のスイッチによって引き起こされるパケットのジッターに対応するために、プレイアウトバッファを調整します。
プレイアウト-遅延モード	DSP のジッター バッファに対して、固定モードまたは適応モードを選択します。
showcallactivevoice	音声通話のアクティブな通話情報を表示します。

playout-delay (voice-port)

WAN 内のスイッチが原因のパケットジッターに対応するようにプレイアウトバッファを調整するには、音声ポート設定モードで **playout-delay** コマンドを使用します。再生バッファをデフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

playout-delay {fax | maximum | nominal} ミリ秒

いいえ再生遅延 {fax | maximum | nominal}

構文の説明

FAX ミリ秒	ジッター バッファがファックス コールに適用する再生遅延の量をミリ秒で指定します。値の範囲は 0 ~ 700 です。デフォルトは 300 です。
最大 ミリ秒	デジタルシグナルプロセッサ (DSP) が音声パケットの破棄を開始する前に許容する遅延時間 (ミリ秒単位)。値の範囲は 40 ~ 320 です。デフォルトは 160 です。
公称 ミリ秒	音声パケットを再生する前に DSP が挿入する初期 (および最小許容) 遅延時間 (ミリ秒単位)。値の範囲は 40 ~ 200 です。デフォルトは 80 です。

コマンド デフォルト

fax--300 milliseconds**maximum**--160 milliseconds**nominal**--80 milliseconds

コマンド モード

音声ポートの構成

コマンド履歴

リリース	変更
11.3(1)MA	このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。
12.0(7)XK	このコマンドが Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズに実装されました。
12.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(2)T に統合されました。
12.2(13)T	fax キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトのプレイアウト遅延設定では、ジッターが原因で過度に音声途切れる場合は、遅延時間を増やします。ネットワークが小さくジッターが小さい場合、遅延時間を減らします。

Cisco IOS Release 12.1(5)T 以前は、**playout-delay** コマンドは音声ポート設定モードで設定されていました。Cisco IOS Release 12.1(5)T およびそれ以降のリリースでは、ほとんどの場合、再生遅延は、発信される音声トラフィックの受信側である、Voice over IP (VoIP) ダイアルピアのダイアルピア コンフィギュレーション モードで設定する必要があります。このダイアルピアはネットワーク状態を検知し、必要に応じてジッター バッファを調整する DSP にそれらをリレーします。複数のアプリケーションがゲートウェイで設定されるとき、再生遅延はダイアルピア設定モードで設定される必要があります。設定するダイアルピアの数が多い場合、音声ポートのプレイアウト遅延を設定する方が簡単な場合があります。競合する再生遅延値が音声ポートとダイアルピアで設定されている場合、ダイアルピア設定が優先されます。

再生遅延は、音声パケットが DSP のジッターバッファで受信されてから、コーデックに再生されるまでの時間です。通常のジッター状態を持つほとんどのネットワークでは、デフォルト設定で十分なので、**playout-delay** コマンドを設定する必要はありません。

ジッターを減らして音声品質を改善したい場合、またはネットワーク遅延を減らしたい場合、**playout-delay** パラメータを設定できます。パラメータは、適応と固定の2つの再生遅延モードでわずかに異なります (**playout-delaymode** コマンドを参照)。

適応モードでは、音声パケットの平均遅延は、コールの進行に伴うパケットの着信変動の量に応じて変動します。ジッターバッファは、ジッターを補償し、音声パケットの円滑な再生を維持するために、設定された最大および最小制限内で拡大および縮小します。最大値は、適応型遅延が設定される最高値を確立します。最小制限は、アダプティブジッターバッファによって作成される着信パケット遅延の下限しきい値です。ジッターバッファの成長と縮小を制御する DSP のアルゴリズムは、ネットワーク遅延を犠牲にして、音声品質の改善に向けて重み付けされます。ジッターバッファサイズは、ネットワーク伝送のスパイクに反応して急速に増加し、輻輳の緩和に反応してゆっくりと減少します。

固定モードでは、公称値はゲートウェイのジッターバッファによって通話の開始時に適用される再生遅延の量であり、通話中のジッターバッファの最大サイズでもあります。

原則として、デフォルトの **playout-delay** 設定でジッターが原因で過度に音声途切れる場合は、**playout-delay** 時間を増やします。ネットワークが小さく、ジッターが最小の場合、プレイアウト遅延時間を減らして全体の遅延を小さくします。

ネットワークに突発的なジッターがある場合、ジッターバッファが実際には再生遅延を正確に調整していても、音声品質が劣化する可能性があります。不安定なネットワーク条件に合わせて再生遅延を絶え間なく再調整すると音声品質の問題が発生しますが、通常、適応モードで再生遅延の最小値を大きくするか、固定モードで遅延の公称値を大きくすることで問題は解決します。



(注) 再生遅延の最小値は、**playout-delay(ダイヤルピア)** コマンドを使用して設定します。

showcallactivevoice コマンドを使用して、現在の遅延と同様に通話中の遅延の最高水点と最低水点を表示します。ジッターの問題のサイズを判断するのに役立つ他のフィールドには、**GapFillWith...**、**ReceiveDelay**、**LostPackets**、**EarlyPackets**、**LatePackets** があります。

showcallactivevoice コマンドの出力例を次に示します:

```
VOIP:
ConnectionId[0xECDE2E7B 0xF46A003F 0x0 0x47070A4]
IncomingConnectionId[0xECDE2E7B 0xF46A003F 0x0 0x47070A4]
RemoteIPAddress=192.168.100.101
RemoteUDPPort=18834
RoundTripDelay=26 ms
SelectedQoS=best-effort
tx_DtmfRelay=inband-voice
FastConnect=TRUE
Separate H245 Connection=FALSE
H245 Tunneling=FALSE
SessionProtocol=cisco
SessionTarget=
```

playout-delay (voice-port)

```

OnTimeRvPlayout=417000
GapFillWithSilence=850 ms
GapFillWithPrediction=2590 ms
GapFillWithInterpolation=0 ms
GapFillWithRedundancy=0 ms
HiWaterPlayoutDelay=70 ms
LoWaterPlayoutDelay=29 ms
ReceiveDelay=39 ms
LostPackets=0
EarlyPackets=0
LatePackets=86

```

例

次の例では、音声ポート 1/0/0 で、名目上のプレイアウト遅延を 80 ms、最大プレイアウト遅延を 160 ms に設定します。

```

voice-port 1/0/0

playout-delay nominal 80
playout-delay maximum 160

```

関連コマンド

コマンド	説明
playout-delay(dialpeer)	DSP のプレイアウトバッファを調整して、WAN のスイッチによって引き起こされるパケットジッターに対応します。
プレイアウト-遅延モード	デジタルシグナルプロセッサのジッターバッファからの再生遅延を、固定モードまたは適応モードを選択します。
showcallactive	進行中の音声コールまたは FAX 送信のアクティブなコール情報を表示します。
vad	音声アクティビティの検出を有効にします。

playout-delay mode (dial-peer)

デジタルシグナルプロセッサ (DSP) のジッターバッファからの再生遅延を固定または適応モードに選択するには、ダイヤルピア設定モードで **playout-delaymode** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

playout-delay モード {adaptive | fixed}

いいえ **playout-delay** モード

構文の説明	adaptive	ジッターバッファ サイズとプレイアウト遅延の量は、現在のネットワーク状態に基づいて、通話中に調整されます。
	fixed	ジッターバッファ サイズは、コール中には調整されません。一定のプレイアウト遅延が追加されます。

コマンドデフォルト アダプティブ ジッターバッファ サイズ

コマンドモード
ダイヤルピア コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更
	12.1(5)T	このコマンドが、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco MC3810、および Cisco ICS 7750 に導入されました。 -タイムスタンプキーワードが削除されました。

使用上のガイドライン Cisco IOS Release 12.1(5)T 以前は、このコマンドは音声ポート設定モードでのみ使用されました。Cisco IOS Release 12.1(5)T 以降のリリースでは、ほとんどの場合、再生遅延は、バッファされる音声トラフィックの受信側にある VoIP ダイヤルピアのダイヤルピア設定モードで設定する必要があります。このダイヤルピアはネットワーク状態を検知し、必要に応じてジッターバッファを調整する DSP にそれらをリレーします。複数のアプリケーションがゲートウェイで設定されるとき、再生遅延はダイヤルピア設定モードで設定される必要があります。



ヒント 設定するダイヤルピアの数が多い場合、音声ポートのプレイアウト遅延を設定する方が簡単です。相反する再生遅延の値が音声ポートとダイヤルピアで設定されている場合、ダイヤルピアの設定が優先されます。

通常のジッター状態にあるほとんどのネットワークでは、デフォルトで十分なため、このコマンドを設定する必要はありません。

デフォルトはアダプティブモードです。このモードでは、音声パケットの平均遅延は、コールの進行に伴うパケットの着信変動の量に応じて変動します。ジッターバッファは、ジッター

を補償し、音声パケットの円滑な再生を維持するために、設定された最大および最小制限内で拡大および縮小します。

ネットワークの状態をよく理解している場合や、サービスの質（QoS）が非常に低いネットワークを使用している場合、またはメディアサーバーなどの送信源と連携しており、送信源でジッターが多く発生する傾向がある場合など、固定モードを選択してください。ほとんどの状況では、適応モードを設定し、DSP に現在の状況に応じてジッター バッファのサイズを調整させることをお勧めします。

例

次の例では、VoIP ダイアルピア 80 に高い (80 ms) 最小遅延を設定し、適応型再生遅延モードに設定しています。

```
dial-peer 80 voip
  playout-delay mode adaptive
  playout-delay minimum high
```

関連コマンド

コマンド	説明
playout-delay	音声パケットのプレイアウト遅延に対して DSP のジッター バッファを調整します。
showcallactivevoice	音声通話のアクティブな通話情報を表示します。

再生遅延モード (音声ポート)

デジタルシグナルプロセッサ (DSP) のジッターバッファからの再生遅延を固定または適応モードに選択するには、**再生遅延ボイスポート設定モード**で**モード**コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

再生遅延モード {**adaptive** | **fixed**}

いいえ再生遅延モード

構文の説明

アダプティブ	ジッターバッファサイズとプレイアウト遅延の量は、現在のネットワーク状態に基づいて、通話中に調整されます。
fixed	ジッターバッファサイズは、コール中には調整されません。一定のプレイアウト遅延が追加されます。

コマンドデフォルト

アダプティブ ジッター バッファ サイズ

コマンドモード

音声ポートの構成

コマンド履歴

リリース	変更
11.3(1)MA	このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。
12.0(7)XK	このコマンドが Cisco 2600 および Cisco 3600 シリーズに実装されました。
12.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(2)T に統合されました。
12.1(3)XI	このコマンドが Cisco ICS 7750 に実装されました。キーワード モード が導入されました。
12.1(5)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(5)T に統合され、 no-timestamps キーワードが削除されました。

使用上のガイドライン

Cisco IOS Release 12.1(5)T 以前は、このコマンドは音声ポート設定モードでのみ使用されました。Cisco IOS Release 12.1(5)T およびそれ以降のリリースでは、ほとんどの場合、再生遅延は、発信される音声トラフィックの受信側である、Voice over IP (VoIP) ダイアルピアのダイヤルピア コンフィギュレーションモードで設定する必要があります。このダイヤルピアはネットワーク状態を検知し、必要に応じてジッターバッファを調整する DSP にそれらを一時的にリレーします。複数のアプリケーションがゲートウェイで設定されるとき、再生遅延はダイヤルピア設定モードで設定される必要があります。



ヒント 設定するダイヤルピアの数が多い場合、音声ポートのプレイアウト遅延を設定する方が簡単な場合があります。相反する再生遅延の値が音声ポートとダイヤルピアで設定されている場合、ダイヤルピアの設定が優先されます。

通常のジッター状態にあるほとんどのネットワークでは、デフォルト設定で十分であり、**再生遅延mode** コマンドを設定する必要はありません。

デフォルトはアダプティブモードです。このモードでは、音声パケットの平均遅延は、コールの進行に伴うパケットの着信変動の量に応じて変動します。ジッターバッファは、ジッターを補償し、音声パケットの円滑な再生を維持するために、設定された最大および最小制限内で拡大および縮小します。

ネットワークの状態をよく理解している場合や、サービスの質 (QoS) が非常に低いネットワークを使用している場合、またはメディアサーバーなどの送信源と連携しており、送信源でジッターが多く発生する傾向がある場合など、固定モードを選択してください。ほとんどの状況では、適応モードを設定し、DSP に現在の状態に応じてジッターバッファのサイズを調整させることをお勧めします。

例

次の例では、Cisco 3640 音声ポートに 80 ms の公称遅延の固定モードを設定します。

```
voice-port 1/1/0
  playout-delay mode fixed
  playout-delay nominal 80
```

関連コマンド

コマンド	説明
playout-delay	音声パケットのプレイアウト遅延に対して DSP のジッターバッファを調整します。
showcallactivevoice	音声通話のアクティブな通話情報を表示します。

police profile

メディア帯域幅ポリシングプロファイルをメディアクラスに適用するには、メディアクラス設定モードで **ポリシングプロファイル** コマンドを使用します。設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

police profile タグ
no police profile

構文の説明

タグ	メディアプロファイルポリスタグ。値の範囲は1～10000です。
----	---------------------------------

コマンドデフォルト

メディア帯域幅ポリシングプロファイルはメディアクラスに適用されません。

コマンドモード

メディアクラスの設定 (cfg-mediaclass)

コマンド履歴

リリース	変更
15.2(2)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ダイヤルピアレベルでメディア帯域幅ポリシングプロファイルを適用するには、2つのアクションが含まれます;メディアクラスのプロファイルを適用し、対応するメディアクラスをダイヤルピアに適用する。メディアクラスにメディア帯域幅ポリシングプロファイルを適用するには、**police profile** コマンドを使用します。

例

次に、メディア帯域幅ポリシングプロファイルをメディアクラスに適用する例を示します。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# media class 1
Router(cfg-mediaclass)# police profile 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
メディアクラス	ダイヤルピアレベルでメディアクラスを適用します。
snmp-server enable traps voice media-policy	グローバルレベルでSNMPメディアポリシーの音声トラップを有効にします。
snmp enable peer-trap media-policy	ダイヤルピアレベルでのSNMPメディアポリシー音声トラップを有効にします。

ポート (Annex G 近隣 BE)

Annex G メッセージの交換に使用される近隣のポート番号を設定するには、Annex G 近隣 BE 構成モードで **port** コマンドを使用します。ポート「番号を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

portneighbor-port
いいえポート

構文の説明	<i>neighbor-port</i> 近隣のポート番号。この番号は、Annex G メッセージの交換に使用されます。デフォルトのポート番号は 2099 です。										
コマンド デフォルト	2099										
コマンド モード	Annex G 近隣 BE の設定										
コマンド履歴	<table border="1"> <tr> <td>リリース</td> <td>変更</td> </tr> <tr> <td>12.2(2)XA</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> <tr> <td>12.2(4)T</td> <td>このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 のサポートは、このリリースには含まれていません。</td> </tr> <tr> <td>12.2(2)XB1</td> <td>このコマンドが Cisco AS5850 に実装されました。</td> </tr> <tr> <td>12.2(11)T</td> <td>このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合されました。このコマンドは、このリリースの Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 でサポートされています。</td> </tr> </table>	リリース	変更	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 のサポートは、このリリースには含まれていません。	12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に実装されました。	12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合されました。このコマンドは、このリリースの Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 でサポートされています。
リリース	変更										
12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。										
12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 のサポートは、このリリースには含まれていません。										
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に実装されました。										
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合されました。このコマンドは、このリリースの Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 でサポートされています。										

使用上のガイドライン **noport** コマンドを設定する場合、*neighbor-port* 引数は使用しません。

例

次の例では、近隣 BE をポート番号 2010 に設定しています。

```
Router(config-annexg-neighbor)# port 2010
```

関連コマンド	<table border="1"> <tr> <th>コマンド</th> <th>説明</th> </tr> <tr> <td>advertise(annexg)</td> <td>BE が近隣に通知する記述子のタイプを制御します。</td> </tr> <tr> <td>キャッシュ</td> <td>近隣から受信した記述子をキャッシュするように、ローカル BE を設定します。</td> </tr> <tr> <td>ID</td> <td>近隣のブリッジエンティティのローカル ID を設定します。</td> </tr> </table>	コマンド	説明	advertise(annexg)	BE が近隣に通知する記述子のタイプを制御します。	キャッシュ	近隣から受信した記述子をキャッシュするように、ローカル BE を設定します。	ID	近隣のブリッジエンティティのローカル ID を設定します。
コマンド	説明								
advertise(annexg)	BE が近隣に通知する記述子のタイプを制御します。								
キャッシュ	近隣から受信した記述子をキャッシュするように、ローカル BE を設定します。								
ID	近隣のブリッジエンティティのローカル ID を設定します。								

コマンド	説明
クエリ-間隔	ローカル BE が近隣の BE にクエリーを行う間隔を設定します。

ポート(ダイヤルピア)

ダイヤルピアを特定の音声ポートに関連付けるには、ダイヤルピア設定モードで **port** コマンドを使用します。この関連付けをキャンセルするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

Cisco 1750 および Cisco 3700 シリーズ

ポートスロット番号/ポート
no portスロット番号/ポート

Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco 7200 シリーズ

ポート {スロット番号/サブユニット番号/ポート | スロット/ポート:*ds0-group-number*}
no port {スロット番号/サブユニット番号/ポート | スロット/ポート:*ds0-group-number*}

Cisco AS5300 および Cisco AS5800

ポートコントローラ番号:**D**
no portコントローラ番号:**D**

Cisco uBR92x シリーズ

ポートスロット/サブユニット/ポート
no portスロット/サブユニット/ポート

構文の説明

<i>slot-number</i>	音声インターフェイスカード (VIC) がインストールされているルーターのスロット番号。有効なエントリは0から2までで、VICがインストールされているスロットに応じて決まります。
ポート	音声ポート番号。有効な値は0と1です。
スロット-番号	VICがインストールされているルータのスロット番号。有効なエントリは0から2までで、VICがインストールされているスロットに応じて決まります。
サブユニット-番号	音声ポートがある VIC 上のサブユニット 有効な値は0と1です。
ポート	音声ポート番号。有効な値は0と1です。
スロット	ルーターにインストールされている音声ポートアダプタの場所。有効な値は0と3です。
ポート	音声インターフェイスカードのロケーション。有効な値は0と3です。
<i>ds0-グループ-番号</i>	DS0 グループ番号です。定義された各 DS0 グループ番号は、個別の音声ポートで表されます。これにより、デジタル T1/E1 カードに個別の DS0 を定義できます。

コントローラ-番号	T1 または E1 コントローラ。
:D	ISDN PRI に関連する D チャンネルを示します。

スロット/サブユニット/ポート	<p>アナログ音声ポート。 <i>slot/subunit/port</i> の有効なエントリは次のとおりです：</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>slot</i>-- 音声ネットワークモジュール (NM) がインストールされるルータースロットです。有効なエントリは特定のプラットフォームのルータースロット番号です。 • <i>subunit</i>-- 音声ポートがある VIC です。有効な値は 0 と 1 です。(VIC は音声ネットワークモジュールに収まります。) • <i>port</i>-- アナログ音声ポート番号。有効な値は 0 と 1 です。
-----------------	--

コマンドデフォルト ポートが設定されていません。

コマンドモード ダイヤル ピア構成

コマンド履歴

リリース	変更
11.3(1)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに導入されました。
11.3(3)T	このコマンドが Cisco 2600 シリーズに実装されました。
11.3(1)MA	このコマンドが Cisco MC3810 に実装されました。
12.0(3)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.0(3)T に統合され、Cisco AS5300 に実装されました。
12.0(4)T	このコマンドが Cisco uBR924 に実装されました。
12.0(7)T	このコマンドが Cisco AS5800 に実装されました。
12.2(8)T	このコマンドが次のプラットフォームに実装されました: Cisco 1751、Cisco 3725、および Cisco 3745
12.2(13)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(13)T に統合されました。このコマンドは、Cisco AS5300 または Cisco AS5800 の拡張エコーキャンセラ (EC) 機能をサポートしていません。
12.4(22)T	IPv6 のサポートが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドにより、テレフォニーインターフェイスからの通話は着信ダイヤルピアを選択し、VoIP ネットワークからの通話は選択した発信ダイヤルピアのポートを照合できます。

このコマンドは POTS ピアにのみ適用されます。



(注) このコマンドは Cisco AS5300 の拡張 EC 機能をサポートしていません。

例

次の例では、POTS ダイヤルピア 10 を音声ポート 1 に関連付けます。音声ポート 1 はサブユニット 0 にあり、ポート 0 経由でアクセスします。

```
dial-peer voice 10 pots
port 1/0/0
```

次に、POTS ダイヤルピア 10 を音声ポート 0:D に関連付ける例を示します。

```
dial-peer voice 10 pots
port 0:D
```

次に、POTS ダイヤルピア 10 を音声ポート 1/0/0:D (T1 カード) に関連付ける例を示します。

```
dial-peer voice 10 pots
port 1/0/0:D
```

関連コマンド

コマンド	説明
プレフィックス	ダイヤルピアのダイヤル番号のプレフィックスを指定します。

port (MGCP profile)

音声ポートを、設定されている Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルに関連付けるには、**MGCP プロファイル設定モード**で `port` コマンドを使用します。プロファイルから音声ポートの関連付けを解除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

port*port-number*

いいえ **port***port-number*

構文の説明	ポート-番号	音声ポートまたは DS0 グループ番号が、MGCP プロファイルに関連付けられた MGCP エンドポイントとして使用されるようになります。
-------	--------	---

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード MGCP プロファイルの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XA	このコマンドが voice-port (MGCP プロファイル) コマンドとして導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
	12.2(8)T	このコマンドは、 port (MGCP プロファイル) コマンドに改名されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、MGCP プロファイルの値が設定されている場合に使用されます。

このコマンドは、音声ポートを定義されている MGCP プロファイルに関連付けます。複数の音声ポートをプロファイルに関連付けるには、異なる音声ポート引数を指定してこのコマンドを繰り返します。

デフォルトの MGCP プロファイルが設定されている場合、このコマンドは使用されません。なぜなら、デフォルトのプロファイル設定の値が、ユーザ定義の MGCP プロファイル用に設定されていないすべてのパラメータに適用されるからです。

例

次の例では、Cisco uBR925 プラットフォームでアナログ音声ポートを MGCP プロファイルに関連付けています。

```
Router(config)# mgcp profile ny110ca
Router(config-mgcp-profile)# port 0
```

関連コマンド	コマンド	説明
	mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。

コマンド	説明
mgcp プロファイル	1つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた名前付き MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。

ポート(補足サービス)

STCアプリケーションの補足サービス機能に音声ポートを関連付けるための補足サービス音声ポート構成モードに入るには、補足サービス構成モードで **port** コマンドを使用します。関連付けをキャンセルするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

portポート
いいえ**port**ポート

構文の説明	ポート Cisco ISR または Cisco VG224 アナログ電話ゲートウェイのポートの場所。構文はプラットフォームに依存します。「?」と入力して確認してください。
-------	--

コマンド デフォルト このコマンドにデフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード
補足サービス構成 (config-stcapp-suppl-serv)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.4(20)YA	このコマンドが導入されました。
	12.4(22)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(22)T に統合されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、アナログ FXS ポートを、設定されている STC アプリケーションの付加サービス機能に関連付けます。

例 次の例は、Cisco VG224 のポート 2/0 に接続されたアナログエンドポイントで、保留/再開を有効にする方法を示します。

```
Router(config)# stcapp supplementary-services
Router(config-stcapp-suppl-serv)# port 2/0
Router(config-stcapp-suppl-serv-port)# hold-resume
Router(config-stcapp-suppl-serv-port)# end
```

関連コマンド	コマンド	説明
	保留-再開	設定中のポートで機能モードでの保留/再開を有効にします。

port media

ローカルビデオダイヤルピアにローカルビデオコーデックが接続されているシリアルインターフェイスを指定するには、ビデオダイヤルピア設定モードで **port media** コマンドを使用します。ダイヤルピアから設定済みロケーションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ポートメディアインターフェイス
いいえポートメディア

構文の説明	インターフェイス	ローカルコーデックが接続されているシリアルインターフェイス。有効な値は 0 と 1 です。
-------	----------	---

コマンド デフォルト インターフェイスが指定されていません。

コマンド モード ビデオダイヤルピアの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(5)XK	このコマンドが、Cisco MC3810 の ATM ビデオダイヤルピア設定に導入されました。
	12.0(7)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.0(7)T に統合されました。

例

次の例では、コーデック ローカル ビデオダイヤルピア 10 のインターフェイスとして、シリアルインターフェイス 0 を指定しています。

```
dial-peer video 10 videocodec
port media Serial0
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ポートシグナル	VDM のスロットの場所とシグナリング用の EIA/TIA-366 インターフェイスのポートの場所を指定します。
	showdial-peervideo	ダイヤルピア設定を表示します。

port-range

TFTP サーバのポート範囲を指定するには、電話プロキシ設定モードで **port-range** コマンドを使用します。ポート範囲を削除するには、**no** 形式のコマンドを使用します。

ポート範囲 最小ポート 最大ポート

ポート範囲無効 最小ポート 最大ポート

構文の説明

最小ポート ポート範囲の最初のポート番号です。
ト

max-port ポート範囲の最後のポート番号です。

コマンド デフォルト

ポート範囲が指定されていません。

コマンド モード

Phone-proxy configuration mode (config-pp-pr)

コマンド履歴

リリース 変更
ス

15.3(3)M このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

例

次の例は TFTP サーバのポート範囲を設定する方法を示しています。最初のポート番号は 30000 で、最後のポート番号は 40000 です。

```
Device(config-pp-pr)# port-range 30000 40000
```

ポートシグナル

ビデオ ダイヤリング モジュール (VDM) のスロットの場所、およびローカル ビデオ ダイアルピアのシグナリングのための EIA/TIA-366 インターフェイスのポートの場所を指定するには、ビデオ ダイアルピア設定モードでポート信号コマンドを使用します。ダイアルピアから設定済みロケーションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ポートシグナルスロット/ポート
いいえポート信号

構文の説明	スロット/ ポート	VDM のスロットの場所。有効な値は 1 と 2 です。 EIA/TIA-366 インターフェイスのポートの場所です。

コマンド デフォルト 場所が指定されていません。

コマンド モード ビデオ ダイアルピアの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(5)XK	このコマンドが、Cisco MC3810 の ATM ビデオダイアルピアの設定に導入されました。
	12.0(7)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.0(7)T に統合されました。

例 次の例では、10 として指定されたローカル ビデオ ダイアルピアの VDM および EIA/TIA-366 インターフェイス ロケーションをセットアップします。

```
dial-peer video 10 videocodec
port signal 1/0
```

関連コマンド	Command	Description
	portmedia	ローカル ビデオ コーデックが接続されるシリアル インターフェイスを指定します。
	showdial-peervideo	ダイアルピア設定を表示します。

pots call-waiting

ローカルコールウェイティング機能を有効にするには、グローバル設定 **pots発信-待機** コマンドをグローバル コンフィギュレーション モードで実行します。ローカルコール待機機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

pots コール ウェイティング {ローカル | リモート}
いいえ pots コール ウェイティング {ローカル | リモート}

構文の説明	ローカル	ルーターのローカル ベースでコールウェイティングを有効にします。
	リモート	ルーターの代わりにネットワークプロバイダのサービスを利用して通話を保留します。

コマンドデフォルト リモート、その場合、コール保留パターンは、ルーターの設定ではなく、サービスプロバイダの設定に従います。

コマンドモード グローバル設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.1.(2)XF	このコマンドが Cisco 800 シリーズに追加されました。

使用上のガイドライン キャッチホンの設定を表示するには、**show running-config** または **show pots status** コマンドを使用します。ISDN コールウェイティングサービスは、ルーターにローカルコールウェイティングが設定されている場合でも、ルーターに接続された ISDN 回線で利用可能な場合に使用されます。つまり、ISDN 回線がコールウェイティングをサポートしている場合、ルーターのローカルなコールウェイティングの設定は無視されます。

例 次の例では、ルーターでローカル通話待機を有効にします。

```
pots call-waiting local
```

関連コマンド	コマンド	説明
	コール ウェイティング	特定のダイヤル ピアにコールウェイティングを設定します。
	showpotsstatus	Cisco 800 シリーズルーターの電話インタフェースに関する物理的特性およびその他の情報の設定を表示します。

pots country

各物理的特性に対して、国別のデフォルト設定を使用するために、接続している電話、ファックス、またはモデムを構成するには、グローバル設定モードで **potscountry** コマンドを使用します。国別のデフォルト設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

pots国国

いいえ **pots**国国

構文の説明

国	ルータが設置されている国です。
---	-----------------

コマンド デフォルト

デフォルトの国は定義されていません。

コマンド モード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(3)T	このコマンドが Cisco 800 シリーズに追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは Cisco 800 シリーズ ルーターに適用されます。

物理的特性の、国固有のデフォルト設定を変更する必要がある場合、「関連コマンド」にリストされている関連コマンドを使用できます。サポートされている国のリストと、特定の国を示すために必要な国コードを取得するために、**potscountry?** コマンドを入力します。

例

次の例では、電話ポートに接続されたデバイスが、ドイツに固有の既定設定の物理的特性を使用することを指定しています。

```
pots country de
```

関連コマンド

コマンド	説明
potsdialing-method	Cisco 800 シリーズルーターが、接続された電話、ファックス、またはモデムでダイヤルされた番号を収集し、送信する方法を指定します。
potsdisconnect-supervision	発呼側が切断したときに、Cisco 800 シリーズルーターが接続されている電話、FAX、またはモデムに通知する方法を指定します。

コマンド	説明
potsdisconnect-time	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムが発呼側が切断されたことを検出できない場合に、適用される切断方法の間隔を指定します。
potsdistinctive-ring-guard-time	前の通話が切断された後に電話ポートを鳴らすことができる遅延時間を指定します (Cisco 800 シリーズルーター)。
potsencoding	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムの PCM エンコードスキームを指定します。
potsline-type	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムのインピーダンスを指定します。
potsringing-freq	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムの呼び出し音の頻度を指定します。
potssilence-time	発呼側が切断した後の無音時間を指定します (Cisco 800 シリーズルーター)。
potstone-source	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムのダイヤル、呼び出し音、および話中音のソースを指定します。
showpotsstatus	Cisco 800 シリーズルーターの電話インタフェースに関する電話ポートの物理的特性およびその他の情報を表示します。

pots dialing-method

接続された電話、ファックス、またはモデムからダイヤルされた番号をルーターが収集および送信する方法を指定するには、**potsdialing-method** コマンドをグローバル設定モードで使用します。指定のダイヤル方法を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

potsダイヤル方法 {**overlap** | **enblock**}

いいえ**pots**ダイヤル方法 {**overlap** | **enblock**}

構文の説明	overlap	ルーターは、ダイヤルされた各番号を個別のメッセージとして送信します。
	enblock	ルーターはダイヤルされたすべての番号を収集し、それらの番号を1つのメッセージに送信します。

コマンド デフォルト デフォルトは **potscountry** コマンドの設定により異なります。詳細は **potscountry** コマンドを参照してください。

コマンド モード グローバル設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(3)T	このコマンドが Cisco 800 シリーズに導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは Cisco 800 シリーズ ルーターに適用されます。

ダイヤルした番号の収集と転送を停止するには、# を入力するか、桁間タイマーが切れる (10 秒) まで番号のダイヤルを停止します。

例 次の例では、ルーターがエンブロックダイヤル方法を使用することを指定しています。

```
pots dialing-method enblock
```

関連コマンド	コマンド	説明
	potscountry	Cisco 800 シリーズ ルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムを構成し、各物理的特性に対して国固有のデフォルト設定を使用します。
	potsdisconnect-supervision	発呼側が切断したときに、Cisco 800 シリーズ ルーターが接続されている電話、FAX、またはモデムに通知する方法を指定します。

コマンド	説明
potsdisconnect-time	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムが発呼側が切断されたことを検出できない場合に、適用される切断方法の間隔を指定します。
potsdistinctive-ring-guard-time	前の通話が切断された後に電話ポートを鳴らすことができる遅延時間を指定します (Cisco 800 シリーズルーター)。
potsencoding	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムの PCM エンコードスキームを指定します。
potsline-type	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムのインピーダンスを指定します。
potsringing-freq	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムの呼び出し音の頻度を指定します。
potssilence-time	発呼側が切断した後の無音時間を指定します (Cisco 800 シリーズルーター)。
potstone-source	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムのダイヤル、呼び出し音、および話中音のソースを指定します。
showpotsstatus	Cisco 800 シリーズルーターの電話インタフェースに関する電話ポートの物理的特性およびその他の情報を表示します。

pots disconnect-supervision

発信側が切断したときに、ルーターが接続されている電話、ファックス、またはモデムにどのように通知するかを指定するには、グローバル設定モードで **potsdisconnect-supervision** コマンドを使用します。指定の切断方法を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

potsdisconnect-supervision {osi | reversal}

いいえ **potsdisconnect-supervision {osi | reversal}**

構文の説明	OSI	オープンスイッチングインターバル (OSI) は、電話ポートのチップとリングの間に適用される DC 電圧が取り除かれる期間です。
	reversal	電話ポートのチップとリングの極反転。

コマンド デフォルト デフォルトは **potscountry** コマンドの設定により異なります。詳細は **potscountry** コマンドを参照してください。

コマンド モード グローバル構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(3)T	このコマンドが Cisco 800 シリーズに導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは Cisco 800 シリーズ ルーターに適用されます。

日本を除くほとんどの国では **osi** オプションが使用されます。日本では通常 **反転** オプションが使用されます。

例 次の例では、ルーターが OSI 切断方式を使用することを指定しています。

```
pots disconnect-supervision osi
```

関連コマンド	コマンド	説明
	potscountry	Cisco 800 シリーズ ルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムを構成し、各物理的特性に対して国固有のデフォルト設定を使用します。
	potsdialing-method	Cisco 800 シリーズルーターが、接続された電話、ファックス、またはモデムでダイヤルされた番号を収集し、送信する方法を指定します。

コマンド	説明
potsdisconnect-time	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムが発呼側が切断されたことを検出できない場合に、適用される切断方法の間隔を指定します。
potsdistinctive-ring-guard-time	前の通話が切断された後に電話ポートを鳴らすことができる遅延時間を指定します (Cisco 800 シリーズルーター)。
potsencoding	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムの PCM エンコードスキームを指定します。
potsline-type	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムのインピーダンスを指定します。
potsringing-freq	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムの呼び出し音の頻度を指定します。
potssilence-time	発呼側が切断した後の無音時間を指定します (Cisco 800 シリーズルーター)。
potstone-source	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムのダイヤル、呼び出し音、および話中音のソースを指定します。
showpotsstatus	Cisco 800 シリーズルーターの電話インタフェースに関する電話ポートの物理的特性およびその他の情報を表示します。

pots disconnect-time

グローバル設定モードで **potsdisconnect-time** コマンドを使用して、接続された電話、ファックス、またはモデムが、発信側が切断したことを検出しなかった場合に、切断を実行する間隔を指定します。指定の切断間隔を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

potsdisconnect-time 間隔
 いろいろ **pots** 切断時刻間隔

構文の説明	間隔	間隔(ミリ秒単位)。範囲は 50 から 2000 です。
-------	----	------------------------------

コマンド デフォルト デフォルトは **potscountry** コマンドの設定により異なります。詳細は **potscountry** コマンドを参照してください。

コマンド モード グローバル構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(3)T	このコマンドが Cisco 800 シリーズに導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは Cisco 800 シリーズ ルーターに適用されます。
potsdisconnect-supervision コマンドで切断方法を設定します。

例 次の例では、発信側が切断した後、接続されたデバイスが、設定された切断方法を 100 ms 適用するよう指定します。

```
pots disconnect-time 100
```

関連コマンド	Command	説明
	potscountry	Cisco 800 シリーズ ルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムを構成し、各物理的特性に対して国固有のデフォルト設定を使用します。
	potsdialing-method	Cisco 800 シリーズルーターが、接続された電話、ファックス、またはモデムでダイヤルされた番号を収集し、送信する方法を指定します。

Command	説明
potsdisconnect-supervision	発呼側が切断したときに、Cisco 800 シリーズ ルーターが接続されている電話、FAX、またはモデムに通知する方法を指定します。
potsdistinctive-ring-guard-time	前の通話が切断された後に電話ポートを鳴らすことができる遅延時間を指定します (Cisco 800 シリーズ ルーター)。
potsencoding	Cisco 800 シリーズ ルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムの PCM エンコードスキームを指定します。
potsline-type	Cisco 800 シリーズ ルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムのインピーダンスを指定します。
potsringing-freq	Cisco 800 シリーズ ルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムの呼び出し音の頻度を指定します。
potssilence-time	発呼側が切断した後の無音時間を指定します (Cisco 800 シリーズ ルーター)。
potstone-source	Cisco 800 シリーズ ルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムのダイヤル、呼び出し音、および話中音のソースを指定します。
showpotsstatus	Cisco 800 シリーズ ルーターの電話インタフェースに関する電話ポートの物理的特性およびその他の情報を表示します。

pots distinctive-ring-guard-time

前の通話が切断された後、電話ポートが鳴るまでの遅延を指定するには、グローバル設定モードで **potsdistinctive-ring-guard-time** コマンドを使用します。指定した遅延を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

potsdistinctive-ring-guard-time ミリ秒

いいえ **potsdistinctive-ring-guard-time** ミリ秒

構文の説明	ミリ秒	ミリ秒単位の遅延。範囲は0から1000です。
-------	-----	------------------------

コマンド デフォルト デフォルトは **potscountry** コマンドの設定により異なります。詳細は **potscountry** コマンドを参照してください。

コマンド モード グローバル構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(3)T	このコマンドがCisco 800シリーズに導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドはCisco 800シリーズルーターに適用されます。

例 次の例では、前の通話が切断されてから100 ms後に電話ポートを鳴らすことが可能と指定します:

```
pots distinctive-ring-guard-time 100
```

関連コマンド	コマンド	説明
	potscountry	Cisco 800 シリーズ ルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムを構成し、各物理的特性に対して国固有のデフォルト設定を使用します。
	potsdialing-method	Cisco 800 シリーズルーターが、接続された電話、ファックス、またはモデムでダイヤルされた番号を収集し、送信する方法を指定します。
	potsdisconnect-supervision	発呼側が切断したときに、Cisco 800 シリーズ ルーターが接続されている電話、FAX、またはモデムに通知する方法を指定します。

コマンド	説明
potsdisconnect-time	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムが発呼側が切断されたことを検出できない場合に、適用される切断方法の間隔を指定します。
potsencoding	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムの PCM エンコードスキームを指定します。
potsline-type	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムのインピーダンスを指定します。
potsringing-freq	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムの呼び出し音の頻度を指定します。
potssilence-time	発呼側が切断した後の無音時間を指定します (Cisco 800 シリーズルーター)。
potstone-source	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムのダイヤル、呼び出し音、および話中音のソースを指定します。
呼び出し音	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムの着信音をセットアップします。
showpotsstatus	Cisco 800 シリーズルーターの電話インタフェースに関する電話ポートの物理的特性およびその他の情報を表示します。

pots encoding

接続されている電話、FAX、またはモデムにPCMエンコードスキームを指定するには、グローバル設定モードで **potsencoding** コマンドを使用します。指定したスキームを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

potsencoding {alaw | ulaw}

いいえ **potsencoding {alaw | ulaw}**

構文の説明

alaw	A-law 国際電気通信連合電気通信標準化部門 (ITU-T) アナログ音声サンプルをデジタル値として表すために使用される PCM エンコードスキーム。
ulaw	Mu-law. アナログ音声サンプルをデジタル値として表すために使用される北米の PCM エンコードスキーム。

コマンド デフォルト

デフォルトは **potscountry** コマンドの設定により異なります。詳細は **potscountry** コマンドを参照してください。

コマンド モード

グローバル構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(3)T	このコマンドが Cisco 800 シリーズに追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは Cisco 800 シリーズ ルーターに適用されます。

ヨーロッパでは通常 a-law を使用します。北米では通常 u-law が使用されます。

例

次の例では、a-law を PCM エンコードスキームとして指定しています。

```
pots encoding alaw
```

関連コマンド

コマンド	説明
potscountry	Cisco 800 シリーズ ルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムを構成し、各物理的特性に対して国固有のデフォルト設定を使用します。
potsdialing-method	Cisco 800 シリーズ ルーターが、接続された電話、ファックス、またはモデムでダイヤルされた番号を収集し、送信する方法を指定します。

コマンド	説明
potsdisconnect-supervision	発呼側が切断したときに、Cisco 800 シリーズルーターが接続されている電話、FAX、またはモデムに通知する方法を指定します。
potsdisconnect-time	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムが発呼側が切断されたことを検出できない場合に、適用される切断方法の間隔を指定します。
potsdistinctive-ring-guard-time	前の通話が切断された後に電話ポートを鳴らすことができる遅延時間を指定します (Cisco 800 シリーズルーター)。
potstone-type	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムのインピーダンスを指定します。
potstring-freq	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムの呼び出し音の頻度を指定します。
potssilence-time	発呼側が切断した後の無音時間を指定します (Cisco 800 シリーズルーター)。
potstone-source	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムのダイヤル、呼び出し音、および話中音のソースを指定します。
showpotsstatus	Cisco 800 シリーズルーターの電話インタフェースに関する電話ポートの物理的特性およびその他の情報を表示します。

pots forwarding-method

EURO-ISDN (旧 NET3) 交換機で使用する着信転送メソッドのタイプを設定するには、**pots forwarding-method** コマンドをグローバル設定モードで使用します。転送をオフにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

pots転送方法 {**keypad** | **functional**}

いいえ**pots**転送方法 {**keypad** | **functional**}

構文の説明	キーパッド	フォワーディングコントロールを Euro-ISDN スイッチに与えます。
	functional	ルーターに転送コントロールを与えます。この方法を選択する場合、下の表に記載されているデュアルトーン多重周波数(DTMF)キーパッドコマンドを使用して、着信転送サービスを設定します。

コマンド デフォルト 転送はオフです

コマンド モード グローバル設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使ってユーロ-ISDN 交換機に使われる転送方法のタイプを選択します。このコマンドは他のスイッチタイプには影響しません。

一度に 1 つまたは複数の着信転送サービスを選択できますが、次のユーロ ISDN 交換機の特徴に注意してください。

- 無条件着信転送 (CFU) は、制限なく着信をリダイレクトし、他の着信転送サービス タイプより優先されます。
- 話中の転送 (CFB) は、ダイヤルした番号が話し中の場合に、通話を別の番号にリダイレクトします。
- 無応答時転送 (CFNR) は、ダイヤルした番号が指定時間内に応答がない場合に、その通話を別の番号に転送します。

3 つすべての着信転送サービスが有効になっている場合、CFU は CFB と CFNR を上書きします。デフォルトでは、着信転送サービスは選択されていません。

機能転送方法を選択した場合、下表の DTMF キーパッドコマンドを使用して着信転送サービスを設定します。

表 1: 着信転送サービスの DTMF キーパッドコマンド

タスク	DTMF キーパッドコマンド ¹
CFU を有効にする	**21*番号#
CFU の非アクティブ化	#21#
CFNR を有効にする	**61*number#
CFNR の非アクティブ化	#61#
CFB を有効にする	**67*number#
CFB の非アクティブ化	#67#

¹ ここで、番号はあなたの電話が転送される電話番号です。

着信転送サービスを有効または無効にすると、次の4つの基本サービスが有効または無効になります。スピーチ、3.1 kHz の音声、3.1 kHz のテレフォニー、7 kHz のテレフォニーです。4つの基本サービスのうち少なくとも1つに対して着信転送サービスが有効になっている場合、DTMF キーパッド コマンドを入力した後にダイヤルトーンが聞こえるはずですが、ビジートーンが聞こえる場合、コマンドが無効か、またはスイッチがこのサービスをサポートしていません。

例

次の例では、転送コントロールをルーターに与えています。

```
pots forwarding-method functional
```

関連コマンド

コマンド	説明
potsprefixfilter	ダイヤル番号の桁がフィルタに一致する場合に、ダイヤル番号にダイヤルプレフィックスが追加されないようにするフィルタを設定します。
potsprefixnumber	アナログまたはモデム通話の呼び出し先電話番号に追加されるプレフィックスを設定します。

pots line-type

接続している電話、ファックス、またはモデムのインピーダンスを指定するには、グローバル設定モードで **potsline-type** コマンドを使用します。指定の回線タイプを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

pots回線タイプ {type1 | type2 | type3}

いいえ **pots回線タイプ {type1 | type2 | type3}**

構文の説明	type1	600 オームで動作します。
	type2	900 オームで動作します。
	type3	300 または 400 オームで動作します。

コマンド デフォルト デフォルトは **potscountry** コマンドの設定により異なります。詳細は **potscountry** コマンドを参照してください。

コマンド モード グローバル構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(3)T	このコマンドが Cisco 800 シリーズに導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは Cisco 800 シリーズ ルーターに適用されます。

例 次の例では、ラインタイプを **type1** に設定します。

```
pots line-type type1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	potscountry	Cisco 800 シリーズ ルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムを構成し、各物理的特性に対して国固有のデフォルト設定を使用します。
	potsdialing-method	Cisco 800 シリーズルーターが、接続された電話、ファックス、またはモデムでダイヤルされた番号を収集し、送信する方法を指定します。

コマンド	説明
potsdisconnect-supervision	発呼側が切断したときに、Cisco 800 シリーズ ルーターが接続されている電話、FAX、またはモデムに通知する方法を指定します。
potsdisconnect-time	Cisco 800 シリーズ ルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムが発呼側が切断されたことを検出できない場合に、適用される切断方法の間隔を指定します。
potsdistinctive-ring-guard-time	前の通話が切断された後に電話ポートを鳴らすことができる遅延時間を指定します (Cisco 800 シリーズ ルーター)。
potsencoding	Cisco 800 シリーズ ルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムの PCM エンコードスキームを指定します。
potsringing-freq	Cisco 800 シリーズ ルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムの呼び出し音の頻度を指定します。
potssilence-time	発呼側が切断した後の無音時間を指定します (Cisco 800 シリーズ ルーター)。
potstone-source	Cisco 800 シリーズ ルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムのダイヤル、呼び出し音、および話中音のソースを指定します。
showpotsstatus	Cisco 800 シリーズ ルーターの電話インタフェースに関する電話ポートの物理的特性およびその他の情報を表示します。

pots prefix filter

ダイヤル番号の桁がフィルタに一致する場合に、ダイヤル番号にダイヤルプレフィックスが追加されないようにするフィルタを設定するには、グローバル設定モードで **POTSプレフィックスフィルタ** コマンドを使用します。フィルタを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

potsprefixfilter*number*

いいえ **potsprefixfilter***number*

構文の説明

<i>number</i>	最大8文字までのプレフィックスフィルタ番号。
---------------	------------------------

コマンド デフォルト

既定のフィルタは設定されていません。

コマンド モード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(2)T	このコマンドが Cisco 803 および Cisco 804 に導入されました。

使用上のガイドライン

potsprefixfilter コマンドを使ってプレフィックスダイヤルのフィルタを設定します。最大で10個のフィルタを設定できます。最大数のフィルタが設定されると、追加のフィルタは受け入れられなくなり、既存のフィルタが上書きされることもありません。

新しいフィルタを設定するには、**nopotsprefixfilter** コマンドを使用して少なくとも1つのフィルタを削除します。

* ワイルドカード文字を使用して、フィルターの一致基準を設定できます。たとえば、1* のフィルタを設定し、ダイヤルする番号が1で始まる場合、呼ばれた番号にはプレフィックスが付けられません。プレフィックスフィルターは、可変長にすることができます。設定されたすべてのプレフィックスフィルターは、プレフィックスフィルターの長さを上限として、ダイヤルされた番号と比較されます。一致するものがある場合、ダイヤルされた番号にプレフィックスは追加されません。

例

次の例では、ダイヤルプレフィックスがダイヤルされた番号に追加されないようにする5つのフィルターを構成します。

```
pots prefix filter 192
pots prefix filter 1
pots prefix filter 9
pots prefix filter 0800
pots prefix filter 08456
```

これらのフィルタが設定されている場合、次のダイヤル番号にはプレフィックスは追加されません。

192 ディレクトリ通話

100 オペレータ サービス

999 緊急サービス

0800... トールフリー通話

08456... Energis ネットワーク情報コントローラー上の通話

関連コマンド

コマンド	説明
potsforwarding-method	EURO-ISDN (以前の NET3) スイッチで使用される転送方法のタイプを設定します。
potsprefixnumber	アナログまたはモデム通話の呼び出し先電話番号に追加されるプレフィックスを設定します。

pots prefix number

アナログまたはモデム通話の呼び出し先の電話番号に追加するプレフィックスを設定するには、**potsprefixnumber** コマンドをグローバル コンフィギュレーション モードで選択します。プレフィックスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

potsprefixnumber*number*

いいえ **potsprefixnumber***number*

構文の説明

<i>number</i>	最大5桁のプレフィックスです。
---------------	-----------------

コマンド デフォルト

アナログ コールまたはモデム コールでは、着信番号にプレフィックスが関連付けられていません。

コマンド モード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(2)T	このコマンドが Cisco 803 および Cisco 804 に導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドで設定できるプレフィックスは1つだけです。プレフィックスがすでに存在する場合、このコマンドで設定される次のプレフィックスが古いプレフィックスを上書きします。プレフィックスの長さは可変で、最大5桁までです。**no**potsprefixnumber コマンドを使用してプレフィックスを削除できます。

キーパッドで番号がダイヤルされると、設定されたプレフィックス フィルターと比較されます。一致が決定されると、プレフィックスを追加せずに番号がダイヤルされます。万一、プレフィックス フィルターがダイヤルした番号より多くの桁を持ち、ダイヤルした番号がプレフィックス フィルターの最初の桁と一致した場合、プレフィックスはダイヤルした番号に追加されません。たとえば、プレフィックス フィルターが 5554000 で、555 をダイヤルして停止した場合、ルーターは着信番号が 555 であると見なし、番号にプレフィックスを追加しません。ダイヤルされた番号の桁数は、通常、プレフィックス フィルターの桁数より大きいいため、このイベントはほとんど発生しません。

例

次の例では、プレフィックスを 12345 に設定します。

```
pots prefix number 12345
```

このプレフィックスは、プレフィックス フィルターに一致しないアナログまたはモデム コールのダイヤル番号に追加されます。

関連コマンド

コマンド	説明
potsprefixfilter	ダイヤル番号の桁がフィルタに一致する場合に、ダイヤル番号にダイヤルプレフィックスが追加されないようにするフィルタを設定します。

pots ringing-freq

Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムの呼び出し音の頻度を指定するには、**potsringing-freq** コマンドをグローバル設定モードで使用します。指定した頻度を無効にするには、**no** 形式でこのコマンドを使用します。

pots呼び出し周波数 {20Hz | 25Hz | 50Hz}

いいえ**pots**呼び出し周波数 {20Hz | 25Hz | 50Hz}

構文の説明	20Hz	接続済みのデバイスは20Hzでリングします。
	25Hz	接続済みのデバイスは20Hzでリングします。
	50Hz	接続済みのデバイスは20Hzでリングします。

コマンド デフォルト デフォルトは **potscountry** コマンドの設定により異なります。詳細は **potscountry** コマンドを参照してください。

コマンド モード グローバル構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(3)T	このコマンドが Cisco 800 シリーズに導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは Cisco 800 シリーズルーターに適用されます。

例 次の例では、呼び出し音の周波数を 50Hz に設定します:

```
pots ringing-freq 50Hz
```

関連コマンド	コマンド	説明
	potscountry	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムを構成し、各物理的特性に対して国固有のデフォルト設定を使用します。
	potsdialing-method	Cisco 800 シリーズルーターが、接続された電話、ファックス、またはモデムでダイヤルされた番号を収集し、送信する方法を指定します。

コマンド	説明
potsdisconnect-supervision	発呼側が切断したときに、Cisco 800 シリーズ ルーターが接続されている電話、FAX、またはモデムに通知する方法を指定します。
potsdisconnect-time	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムが発呼側が切断されたことを検出できない場合に、適用される切断方法の間隔を指定します。
potsdistinctive-ring-guard-time	前の通話が切断された後に電話ポートを鳴らすことができる遅延時間を指定します (Cisco 800 シリーズルーター)。
potsencoding	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムの PCM エンコードスキームを指定します。
potsline-type	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムのインピーダンスを指定します。
potssilence-time	発呼側が切断した後の無音時間を指定します (Cisco 800 シリーズルーター)。
potstone-source	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムのダイヤル、呼び出し音、および話中音のソースを指定します。
showpotsstatus	Cisco 800 シリーズルーターの電話インタフェースに関する電話ポートの物理的特性およびその他の情報を表示します。

pots silence-time

発信者が切断した後の無音時間を指定するには、グローバル設定モードで **potssilence-time** コマンドを使用します。指定された無音時間を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

potssilence-time 間隔
いいえ **pots** 無音時間 間隔

構文の説明	間隔	0 から 10 (秒)。
-------	----	--------------

コマンド デフォルト デフォルトは **potscountry** コマンドの設定により異なります。詳細は **potscountry** コマンドを参照してください。

コマンド モード グローバル構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(3)T	このコマンドが Cisco 800 シリーズに導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは Cisco 800 シリーズ ルーターに適用されます。

例 次の例では、無音状態の間隔を 10 秒に設定します。

```
pots silence-time 10
```

関連コマンド	コマンド	説明
	potscountry	Cisco 800 シリーズ ルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムを構成し、各物理的特性に対して固有のデフォルト設定を使用します。
	potsdialing-method	Cisco 800 シリーズ ルーターが、接続された電話、ファックス、またはモデムでダイヤルされた番号を収集し、送信する方法を指定します。
	potsdisconnect-supervision	発呼側が切断したときに、Cisco 800 シリーズ ルーターが接続されている電話、FAX、またはモデムに通知する方法を指定します。

コマンド	説明
potsdisconnect-time	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムが発呼側が切断されたことを検出できない場合に、適用される切断方法の間隔を指定します。
potsdistinctive-ring-guard-time	前の通話が切断された後に電話ポートを鳴らすことができる遅延時間を指定します (Cisco 800 シリーズルーター)。
potsencoding	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムの PCM エンコードスキームを指定します。
potsline-type	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムのインピーダンスを指定します。
potsringing-freq	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムの呼び出し音の頻度を指定します。
potstone-source	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムのダイヤル、呼び出し音、および話中音のソースを指定します。
showpotsstatus	Cisco 800 シリーズルーターの電話インタフェースに関する電話ポートの物理的特性およびその他の情報を表示します。

pots tone-source

接続されている電話、ファックス、またはモデムのダイヤル、呼び出し音、話中音のソースを指定するには、グローバル設定モードで **potstone-source** コマンドを使用します。指定したソースを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

pots トーンソース {ローカル | リモート}
いいえ potstone-source {ローカル | リモート}

構文の説明	ローカル	ルーターがトーンを生成します。
	リモート	電話交換機がトーンを生成しています。

コマンド デフォルト ローカル (ルーターがトーンを生成)

コマンド モード グローバル設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(3)T	このコマンドが Cisco 800 シリーズに追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドは Cisco 800 シリーズ ルーターに適用されます。
 このコマンドは EURO-ISDN (NET3) 交換機に接続された ISDN 回線にのみ適用されます。

例 次の例ではトーンソースをリモートに設定しています:

```
pots tone-source remote
```

関連コマンド	コマンド	説明
	potscountry	Cisco 800 シリーズ ルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムを構成し、各物理的特性に対して国固有のデフォルト設定を使用します
	potsdialing-method	Cisco 800 シリーズルーターが、接続された電話、ファックス、またはモデムでダイヤルされた番号を収集し、送信する方法を指定します。

コマンド	説明
potsdisconnect-supervision	発呼側が切断したときに、Cisco 800 シリーズ ルーターが接続されている電話、FAX、またはモデムに通知する方法を指定します。
potsdisconnect-time	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムが発呼側が切断されたことを検出できない場合に、適用される切断方法の間隔を指定します。
potsdistinctive-ring-guard-time	前の通話が切断された後に電話ポートを鳴らすことができる遅延時間を指定します (Cisco 800 シリーズルーター)。
potsencoding	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムの PCM エンコードスキームを指定します。
potsline-type	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムのインピーダンスを指定します。
potsringing-freq	Cisco 800 シリーズルーターに接続された電話、ファックス、またはモデムの呼び出し音の頻度を指定します。
potssilence-time	発呼側が切断した後の無音時間を指定します (Cisco 800 シリーズルーター)。
showpotsstatus	Cisco 800 シリーズルーターの電話インタフェースに関する電話ポートの物理的特性およびその他の情報を表示します。

ダイヤル前遅延

オフフック状態の開始とデュアルトーン多重周波数(DTMF)シグナリングの開始の間の Foreign Exchange Office (FXO) インターフェイスの遅延を設定するには、**pre-dialdelay** コマンドを音声ポート設定モードで使用します。既定の設定に戻すには、**no** 形式でコマンドを使用します。

pre-dialdelay秒

いいえ **pre-dialdelay**

構文の説明

秒シグナリングが開始されるまでの遅延時間（秒）です。値の範囲は 0 ~ 10 です。デフォルトは 1 です。

コマンド デフォルト

1 秒

コマンドモード

音声ポートの構成

コマンド履歴

リリース	変更
11.(7)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに導入されました。
12.0(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.0(2)T に統合されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを無効にするには、遅延を 0 に設定します。FXO インターフェイスがループ電流を引き出し始めるとき(オフフック状態)、ループ電流の最初のフローとシグナリングの開始の間に遅延が必要です。一部のデバイスでは、シグナリングの開始が速すぎるため、リダイヤルが試行されます。このコマンドはシグナリングの遅延を許容します。

例

次の例では、FXO ポートに 3 秒のプレダイヤル遅延値を設定します。

```
voice-port 1/0/0
pre-dial delay 3
```

関連コマンド

コマンド	説明
timeoutsinitial	指定された音声ポートの初期の桁タイムアウト値を設定します。
timingdelay-duration	指定された音声ポートのダイヤル信号遅延の継続時間を設定します。

preference (dial-peer)

ハントグループ内の発信ダイヤルピアの優先順序を示すには、ダイヤルピア設定モードで **preference** コマンドを使用します。基本設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

preference 値
いいえ **preference**

構文の説明	値0から10までの整数です。数字が小さいほど優先度が高くなります。既定は最高の優先度である0です。
-------	---

コマンド デフォルト 最長一致のダイヤルピアが、優先順位の値よりも優先されます。

コマンド モード
ダイヤル ピアの構成 (dial-peer)

コマンド履歴	リリース	変更
	11.3(1)MA	このコマンドが Cisco MC3810 に追加されました。
	12.0(3)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.0(3)T に統合され、Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズルーターに実装されました。
	12.0(4)T	このコマンドが修正され、Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズルーターでボイスオーバーフレームリレー VoFR ダイヤルピアをサポートするようになりました。
	15.1(3)T	このコマンドは変更されました。異なるパターンタイプのマッチングのサポートが変更されました。
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1r	Yang モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン このコマンドは Plain Old Telephone Service(POTS)、VoIP、VoFR、Voice over ATM VoATM ダイヤルピアに適用されます。

このコマンドを使用して、ハントグループ内の一致するダイヤルピアの優先順序を指定します。優先度を設定することで、ハントグループ内の複数のダイヤルピアがダイヤル文字列にマッチした場合に、希望のダイヤルピアを選択できます。



(注) POTS と音声ネットワーク ピアが同じハントグループに混在している場合、POTS ダイヤルピアは、音声ネットワーク ダイヤルピアよりも優先されなければなりません。

ハンティングアルゴリズムの優先度は構成可能です。たとえば、宛先 A、宛先 B、宛先 C の順に呼処理を行うように指定するには、次の順序で宛先に優先度を指定します。0 が最も高い優先度です。

- 優先度 0 - A
- 優先度 1 - B
- 優先度 2 - C

このコマンドは同じパターンタイプでのみ使用してください。たとえば、destination uri と destination-pattern は 2 つの異なるパターンタイプです。デフォルトでは、destination uri は、destination-pattern より高い優先順位を持っています。

例

次に、POTS ダイアルピア 10 に優先順位 1、POTS ダイアルピア 20 に優先順位 2、VoFR ダイアルピア 30 に優先順位 3 を設定する例を示します。

```
dial-peer voice 10 pots
 destination-pattern 5550150
 preference 1
 exit
dial-peer voice 20 pots
 destination-pattern 5550150
 preference 2
 exit
dial-peer voice 30 vofr
 destination-pattern 5550150
 preference 3
 exit
```

以下の例題は、異なるダイアルピア設定を示しています。

Dialpeer	destpat	preference	session-target
1	408550148	0 (highest)	jmmurphy-voip
2	408555	0	sj-voip
3	408555	1 (lower)	backup-sj-voip
4	1	0:D (interface)
5	0	anywhere-voip

接続先の番号が 408550148 の場合、試行の順番は 1、2、3、5、4 です。

Dialpeer	destpat	preference
1	408555	0
2	408550148	1
3	4085550	0
4	4085550	0

次の例では、destination-pattern の POTS ダイアルピア 10 を 0 のプリファレンスに設定し、宛先 uri の POTS ダイアルピア 20 を 1 のプリファレンスに設定する方法を示します。destination-pattern は destination uri よりも高いプリファレンスですが、destination uri が優先されます。

```
dial-peer voice 10 pots
 destination-pattern 5550158
 preference 0
```

```

exit
dial-peer voice 20 pots
destination uri 5550158
preference 1

```

終了

関連コマンド

コマンド	説明
called-number(dial-peer)	静的 FRF.11 トランク接続の使用時に、着信 VoFR コールレグを正しい POTS コールレグにブリッジできるようにします。
codec(dial-peer)	Voice over Frame Relay ダイアルピアのボイスコーデカの音声レートを指定します。
cptone	地域のアナログ音声インターフェイス関連のトーン、呼び出し音、周期の設定を指定します。
宛先パターン	ダイアルピアに使用されるプレフィックス、完全な E.164 電話番号、または ISDN ディレクトリ番号 (ダイアルプランによる) を指定します。
destinationuri	ダイアルピアを宛先の URI (Uniform Resource Identifier) と照合するために使用される音声クラスを指定します。
dtmf-relay(VoiceoverFrameRelay)	ダイアルピアの FRF.11 Annex A フレームの生成を有効にします。
セッションプロトコル	パケットネットワーク経由でのローカルおよびリモートルーター間の通話のためのセッションプロトコルを確立します。
セッションターゲット	指定されたダイアルピアまたは宛先ゲートキーパーのネットワーク固有のアドレスを指定します。
シグナルタイプ	ダイアルピアへの接続時に使用されるシグナリングタイプを設定します。

preemption enable

トランクグループでプリエンプション機能を有効にするには、トランクグループ設定モードで **preemptionenable** コマンドを使用します。プリエンプション機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

プリエンプション有効にする
 言いえプリエンプション有効にする

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

トランクグループでプリエンプションが無効になっています。

コマンド モード

トランクグループ設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(4)XC	このコマンドが導入されました。
12.4(9)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(9)T に統合されました。

例

次のコマンド例では、トランクグループテストでプリエンプション機能を有効にします。

```
Router(config)# trunk group test
Router(config-trunk-group)# preemption enable
```

関連コマンド

コマンド	説明
isdnintegrateall	ISDN PRI インターフェイスで統合モードを有効にします。
max-calls	トランクグループが処理できるコールの最大数を設定します。
preemptionguardtimer	DDR コールの時間を定義し、チャンネルから最後のコールをクリアする時間が与えられます。
preemptionlevel	選択した発信ダイヤルピアのプリエンプション レベルを設定します。音声通話は、より高い優先レベルの DDR 通話によって中断される場合があります。
preemptiontonetimer	DDR バックアップコールによりプリエンプションされる発信コールのプリエンプション トーンの有効期限を定義します。

プリエンプションガードタイマー

DDR 通話の時間を定義し、チャンネルから最後の通話を消去するための時間を確保するには、トランクグループ設定モードで **preemptionguardtimer** コマンドを入力します。プリエンプション保護時間を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

プリエンプションガードtimer値
いいえプリエンプションガードtimer

構文の説明

値	プリエンプションガードタイマーのミリ秒数。デフォルト値は 60 ~ 500 です。デフォルトは 60 です。
---	--

コマンドデフォルト

プリエンプションガードタイマーは設定されていません。

コマンドモード

トランクグループ設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(4)XC	このコマンドが導入されました。
12.4(9)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(9)T に統合されました。

例

次のコマンドセットは、トランクグループ dial2 に 60 ミリ秒のプリエンプションガードタイマーを設定します。

```
Router(config)# trunk group dial2
Router(config-trunk-group)# preemption enable
Router(config-trunk-group)# preemption guard timer 60
```

関連コマンド

コマンド	説明
isdnintegrateall	ISDN PRI インターフェイスで統合モードを有効にします。
max-calls	トランクグループが処理できるコールの最大数を設定します。
preemptionenable	トランクグループでプリエンプション機能を有効にします。
プリエンプションレベル	選択された発信ダイヤルピアのプリエンプションレベルを設定します。音声通話は、より高い優先レベルの DDR 通話によって中断される場合があります。
preemptiontonetimer	DDR バックアップコールによりプリエンプションされる発信コールのプリエンプション音の有効期限を設定します。

preemption level

トランクグループのダイヤルオンデマンドルーティング (DDR) 通話を音声通話の優先順位に設定するには、ダイヤルピア設定モードで **プリエンプションレベル** コマンドを使用します。このコマンドの設定をデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

preemption レベル {フラッシュオーバーライド | フラッシュ | 即時 | 優先 | ルーチン}
いいえプリエンプションレベル

構文の説明		
フラッシュオーバーライド		音声コールの優先順位をプリエンプション レベル 0 (最高) に設定します。
フラッシュ		音声コールの優先順位をプリエンプション レベル 1 に設定します。
即時		音声コールの優先順位をプリエンプション レベル 2 に設定します。
優先順位		音声コールの優先順位をプリエンプション レベル 3 に設定します。
routine		音声コールの優先順位をプリエンプション レベル 4 (最低) に設定します。これはデフォルトです。

コマンド デフォルト デフォルトの割り込みレベルは **通常** (最低) です。

コマンド モード ダイヤルピア コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更
	12.4(4)XC	このコマンドが導入されました。
	12.4(9)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(9)T に統合されました。

例 次のコマンド例では、POTS ダイヤルピア 20 のフラッシュ (レベル 1) のプリエンプション レベルを設定します。

```
Router(config)# dial-peer voice 20 pots
Router(config-dial-peer)# preemption level flash
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ダイヤラープリエンプションレベル	ダイヤラーマップの DDR コールによってプリエンプションされる音声コールの優先順位を設定します。
	isdnintegrateall	ISDN PRI インターフェイスで統合モードを有効にします。

コマンド	説明
max-calls	トランクグループが処理できるコールの最大数を設定します。
preemptionenable	トランクグループでプリエンプション機能を有効にします。
preemptionguardtimer	DDR コール時間を定義し、チャンネルから最後のコールをクリアする時間が与えられます。
preemptiontonetimer	DDR バックアップコールによりプリエンプションされる発信コールのプリエンプション トーンの有効期限を定義します。

preemption tone timer

DDR バックアップコールによってプリエンプションされる発信コールのプリエンプショントーンの有効期限を設定するには、トランクグループ設定モードで **プリエンプショントーンタイマー** コマンドを入力します。有効期限を消去するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

preemptiontonetimer秒

いいえ **preemptiontonetimer**

構文の説明	秒プリエンプショントーンの長さ(秒単位)。範囲:4~30。デフォルト:10。
-------	--

コマンド デフォルト プリエンプション トーン タイマーが設定されていません。

コマンド モード トランクグループ設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.4(4)XC	このコマンドが導入されました。
	12.4(9)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(9)T に統合されました。

例

次のコマンドセットは、トランク グループ dial2 に 20 秒のプリエンプション トーン タイマーを設定します。

```
Router(config)# trunk group dial2
Router(config-trunk-group)# preemption enable
Router(config-trunk-group)# preemption tone timer 20
```

関連コマンド	コマンド	説明
	isdnintegrateall	ISDN PRI インターフェイスで統合モードを有効にします。
	max-calls	トランクグループが処理できるコールの最大数を設定します。
	プリエンプション有効にする	トランク グループでプリエンプション機能を有効にします。
	プリエンプションレベル	選択した発信ダイヤルピアのプリエンプションレベルを設定します。音声通話は、より高い優先レベルの DDR 通話によって中断される場合があります。

プレフィックス

ダイヤルピアにダイヤルされた番号のプレフィックスを指定するには、ダイヤルピア構成モードで **prefix** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

prefix 文字列

いいえ **prefix**

構文の説明

文字列	指定されたダイヤルピアに関連する電話番号のプレフィックスを表す整数。有効な値は 0 から 9 とカンマ (,) です。プレフィックスに休止を含めるには、コンマを使用します。
-----	--

コマンド デフォルト

Null 文字列

コマンド モード

ダイヤルピア コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更
11.3(1)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに追加されました。
12.0(4)XJ	このコマンドが Cisco AS5300 に実装されました。FAX のストアアンドフォワードに変更されました。
12.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(1)T に統合されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に実装されました。
12.2(8)T	このコマンドが次のプラットフォームに実装されました: Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、および Cisco 3745
12.2(13)T	このコマンドは Cisco IOS Release 12.2(13)T でサポートされ、Cisco 2600XM、Cisco ICS7750、および Cisco VG200 に実装されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使って特定のダイヤルピアのプレフィックスを指定します。このダイヤルピアに対して発信コールが開始されると、**プレフィックス文字列**の値が、関連する電話番号の前に、まずテレフォニーインターフェイスに送信されます。

同じインターフェイス上のダイヤルされた番号に異なるプレフィックスを設定する場合、異なるダイヤルピアを設定する必要があります。

このコマンドは、従来型電話サービス (POTS) ダイヤルピアにのみ適用できます。このコマンドは、オフランプストアアンドフォワードファックス機能に適用されません。

例

次の例では、プレフィックスとして 9 を指定し、次に一時停止を指定します:

```
dial-peer voice 10 pots
  prefix 9,
```

次の例では、プレフィックス 5120002 を指定しています:

```
Router(config-dial-peer)# prefix 5120002
```

関連コマンド

コマンド	説明
answer-address	着信コールのダイヤルピアを識別するために使用される完全な E.164 電話番号を指定します。
destination-pattern	ダイヤルピアに使用されるプレフィックスまたは E.164 電話番号全体を指定します。

プレフィックス (付録 G)

ゲートキーパーが附属書 G ボーダー エlement (BE) に照会するプレフィックスを制限するには、ゲートキーパー ボーダー エlement コンフィギュレーション モードで **prefix** コマンドを使用します。

prefixプレフィックス*[seq | blast]

構文の説明	プレフィックス *	BEを照会するためのプレフィックス。
	seq	(オプション) クエリは隣接する BE に順番に送信されます。
	blast	(オプション) クエリーは近隣の BE に同時に送信されます。

コマンド デフォルト リモートゾーンのクエリーが発生するたびに、BE もクエリーされます。

コマンド モード ゲートキーパー ボーダーエメントの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。 Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 のサポートは、このリリースには含まれていません。
	12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に実装されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合されました。

使用上のガイドライン デフォルトでは、ゲートキーパーはすべてのリモートゾーン要求を BE に送信します。BE へのクエリを特定のプレフィックスまたはプレフィックスのセットに制限する場合にのみ、このコマンドを使用します。

例 次の例では、プレフィックス 408 を使用して BE にクエリするようにゲートキーパーに指示しています。

```
Router (config-gk-annexg) # prefix 408* seq
```

関連コマンド

コマンド	説明
h323-annexg	ゲートキーパーでBEを有効にし、境界要素コンフィギュレーションモードを開始します。

プレフィックス (stcapp-fac)

SCCP テレフォニー制御 (STC) アプリケーションで使用する機能アクセスコード (FAC) のプレフィックスを定義するには、STC アプリケーション機能アクセスコード設定モードで **prefix** コマンドを使用します。プレフィックスをデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

prefixプレフィックス文字列

いいえprefix

構文の説明	プレフィックス文字列	電話のキーパッドでダイヤルできる1から5文字の文字列。文字列はアスタリスク (*) またはシャープ (#) で始まる必要があります。デフォルトは ** です。
-------	------------	---

コマンドデフォルト 既定値は ** です。

コマンドモード STC アプリケーション機能アクセスコード設定 (stcapp-fac)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.4(2)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、FAC プレフィックスを既定の (**) から指定された文字列に変更します。すべての FAC のリストを表示するには、**show stcappfeaturecodes** コマンドを使用します。

例

次に、FAC のプレフィックスをデフォルト値 (**) から 2 つのシャープ記号 (##) に変更する例を示します。

```
Router(config)# stcapp feature access-code
Router(stcapp-fac)# prefix ##
Router(stcapp-fac)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	callforwardall	すべてのコール転送のための機能アクセスコード (FAC) の機能コードを定義します。
	callforwardcancel	不在転送をキャンセルするための機能アクセスコード (FAC) の機能コードを定義します。

コマンド	説明
ピックアップ直通	ダイレクト コール ピックアップの機能アクセス コード (FAC) の機能コードを定義します。
pickupgroup	別のグループからのコール ピックアップの機能アクセス コード (FAC) の機能コードを定義します。
pickuplocal	ローカルグループからのコール ピックアップの機能コード (FAC) を定義します。
showstcappfeaturecodes	すべての機能アクセスコード (FAC) とすべての機能スピードダイヤル (FSD) を表示します。
stcappfeature アクセスコード	STC アプリケーションの機能アクセスコード FAC を有効にし、STC アプリケーション機能アクセスコードコンフィギュレーションモードを開始して、デフォルトからプレフィックスと機能コードの値を変更します。

プレフィックス (stcapp-fsd)

SCCP 電話制御 (STC) アプリケーションで使用する機能スピードダイヤル (FSD) のプレフィックスを定義するには、STC アプリケーション機能スピードダイヤル設定モードで **プレフィックス** コマンドを使用します。プレフィックスをデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

prefixプレフィックス文字列
いいえprefix

構文の説明	プレフィックス文字列	電話のキーパッドでダイヤルできる1から5文字 (0-9、*、#) の文字列。文字列はアスタリスク (*) またはシャープ記号 (#) で開始する必要があります。既定は * です。
-------	------------	---

コマンドデフォルト 既定値は * です。

コマンドモード STC アプリケーション機能のスピードダイヤル設定 (stcapp-fsd)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.4(2)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは STC アプリケーションで使用されます。STC アプリケーションでは、コール制御に Skinny Client Control Protocol (SCCP) を使用するアナログ FXS エンドポイントで特定の機能を有効にします。電話ユーザは、電話番号をダイヤルする FSD スピードダイヤルをダイヤルする前に、フィーチャースピードダイヤル (FSD) プレフィックス文字列をダイヤルする必要があります。たとえば、スピードダイヤルの 3 の位置に記憶されている電話番号をダイヤルするには、電話ユーザは *3 をダイヤルします。

プレフィックスをデフォルト (*) から変更する場合にのみ、このコマンドを使用します。

showstcappfeaturecodes コマンドは、FSD プレフィックスとすべての FSD スピードダイヤルを表示します。

次の例では、FSD のプレフィックスをデフォルト値 (*) から 3 つのアスタリスク (***) に変更する方法を示します。この値が設定されると、電話ユーザはキーパッドの ***2 を押して、番号 2 のスピードダイヤルにダイヤルする必要があります。

```
Router(config)# stcapp feature speed-dial
Router(stcapp-fsd)# prefix ***
Router(stcapp-fsd)# speed dial from 2 to 7
Router(stcapp-fsd)# redial 9
Router(stcapp-fsd)# voicemail 8
Router(stcapp-fsd)# exit
```

関連コマンド	コマンド	説明
	リダイヤル	この電話回線で最後にダイヤルした番号に再度ダイヤルするためのスピードダイヤルコードを定義します。
	showstcappfeaturecodes	すべての機能アクセスコード (FAC) とすべての機能スピードダイヤル (FSD) を表示します。
	スピードダイヤル	STC アプリケーションで機能スピードダイヤル (FSD) の範囲を指定します。
	stcappfeatureaccess-code	STC アプリケーションで機能スピードダイヤル (FSD) を有効にし、デフォルトからプレフィックスとスピードダイヤルコードの値を変更するために STC アプリケーション機能スピードダイヤルコンフィギュレーションモードを開始します。
	ボイスメール (stcapp-fsd)	ボイスメール番号にダイヤルするスピードダイヤルコードを定義します。

preloaded-route

VoIP Session Initiation Protocol (SIP) 通話に対してプリロードルートのサポートを有効にするには、SIP コンフィギュレーションモードまたは音声クラステナントコンフィギュレーションモードで **preloaded-route** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

preloaded-route[sip-server] サービスルート システム
 言い換え **preloaded-route**

構文の説明	sip-server	(オプション) Route ヘッダーに SIP サーバ情報を追加します。
	service-route	Route ヘッダーに Service-Route 情報を追加します。
	システム	VoIP Session Initiation Protocol (SIP) コールのプリロードルートサポートがグローバル sip-ua 値を使用するように指定します。このキーワードはテナントモードでのみ使用可能で、それがグローバル設定にフォールバックすることを許可します。

コマンド デフォルト ルートのサポートが有効になっていません。

コマンド モード SIP 構成 (conf-serv-sip)
 音声クラス テナント構成 (config-class)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.4(22)YB	このコマンドが導入されました。
	15.0(1)M	このコマンドが Cisco IOS Release 15.0(1)M に統合されました。
	15.6(2)T および IOS XE デナリ 16.3.1	このコマンドにキーワード system が追加されました。

使用上のガイドライン ダイヤルピア設定モードでの **voice-class preloaded-route** コマンドは、SIP 構成モードでの **preloaded-route** コマンドよりも優先されます。ただし、**voice-class preloaded-Route** コマンドが **システム** キーワードが指定されている場合、ゲートウェイは **preloaded-Route** コマンドで構成されたグローバル設定を使用します。

例に示すように、音声サービス VoIP 構成モードを開始した後、SIP 構成モードを開始します。

例

以下の例は、Route ヘッダーに SIP サーバと Service-Route 情報を含めるようにシステムを設定する方法を示します。

```
voice service voip
```

```
sip
  preloaded-route sip-server service-route
```

以下の例では、Route ヘッダーに Service-Route 情報のみを含めるようにシステムを設定する方法を示します。

```
voice service voip
sip
  preloaded-route service-route
```

以下の例は、音声クラス テナント コンフィギュレーション モードの Route ヘッダーに、Service-Route 情報のみを含めるようにシステムを設定する方法を示しています。

```
Router(config-class)# preloaded-route service-route system
```

関連コマンド

コマンド	説明
sip	音声サービス VoIP 構成モードから SIP 構成モードを開始します。
voice-classpreloaded-route	ダイヤルピア SIP 呼び出しのためのプリロード ルート サポートを有効にします。

プレゼンス

プレゼンスサービスを有効にしてプレゼンス設定モードを開始するには、グローバル設定モードで **presence** コマンドを使用します。プレゼンスサービスを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

プレゼンス いいえプレゼンス

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

プレゼンスサービスが無効になっています。

コマンド モード

グローバル設定 (config)

コマンド履歴

リリース	シスコ製品	変更
12.4(11)XJ	Cisco Unified CME 4.1	このコマンドが導入されました。
12.4(15)T	Cisco Unified CME 4.1	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(15)T に統合されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにより、ルーターは次のプレゼンス機能を実行できます。

- 内部回線から内部回線へのプレゼンス要求を処理する。内部サブスクリバラーに状況の変更を通知します。
- 内線用 SIP トランクからの着信プレゼンス要求を処理します。状況の変更を外部サブスクリバラーに通知します。
- 内部回線に代わって外部プレゼンティティにプレゼンス要求を送信します。内線へのステータス応答をリレーします。

例

次に、プレゼンスを有効にしてプレゼンス設定モードを開始し、サブスクリプションの最大数を 150 に設定する例を示します。

```
Router(config)# presence
Router(config-presence)# max-subscription 150
```

関連コマンド

コマンド	説明
allowwatch	Cisco Unified CME に登録された電話機のディレクトリ番号を、プレゼンスサービスでウォッチできるようにします。

コマンド	説明
debugpresence	プレゼンスサービスのデバッグ情報を表示します。
最大サブスクリプション	許可される同時監視セッションの最大数を設定します。
presenceenable	ルーターがプレゼンス要求の受信を受け入れることを許可します。
サーバ	内部ウォッチャーから外部プレゼンスエンティティにプレゼンス要求を送信するためのプレゼンスサーバのIPアドレスを指定します。
showpresenceglobal	プレゼンスサービスの設定情報を表示します。
showpresencesubscription	アクティブなプレゼンスのサブスクリプションに関する情報を表示します。

presence call-list

Cisco Unified CME ルーターに登録されている電話で、コールリストとコールディレクトリのビジーランプフィールド (BLF) 監視を有効にするには、**presence call-list ephone**、プレゼンス、または音声レジスタプールコンフィギュレーションモードでのコマンドです。コールリストの BLF インジケータを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

プレゼンス通話リスト

いいえプレゼンス通話リスト

構文の説明

このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンド デフォルト

コールリストの BLF モニタリングが無効になっています。

コマンド モード

Ephone configuration (config-ephone) Presence configuration (config-presence) Voice register pool configuration (config-register pool)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(11)XJ	このコマンドが導入されました。
12.4(15)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(15)T に統合されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにより、電話はディレクトリ番号の回線状況 (不在着信、発信通話、着信通話リストなど) を監視できます。プレゼンスモードでこのコマンドを使用すると、すべての電話に対して BLF call-list 機能が有効になります。個々の SCCP 電話に対してこの機能を有効にするには、**ephone** 設定モードで次のコマンドを使用します。個々の SIP 電話に対してこの機能を有効にするには、音声レジスタプール コンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。

このコマンドがグローバルに無効にされ、音声レジスタプールまたは **ephone** コンフィギュレーションモードで有効になっている場合、機能はその音声レジスタプールまたは **ephone** に対して有効になります。

このコマンドがグローバルに有効になっている場合、特定の音声レジスタプールまたは **ephone** で有効になっているかどうかに関係なく、すべての音声レジスタプールと **ephone** でこの機能が有効になります。

BLF ステータスインジケータを表示するには、電話番号または内線番号に関連付けられたディレクトリ番号で、**allowwatch** コマンドでプレゼンスが有効になっている必要があります。

特定のタイプの電話に表示される BLF ステータスインジケータの詳細については、お使いの電話モデルの [Cisco Unified IP Phone ドキュメント](#) を参照してください。

例

次の例では、イーサネット電話 1 で BLF コールリスト機能が有効になっています。コールリストまたはディレクトリに表示されるディレクトリ番号の回線ステータスは、

そのディレクトリ番号のプレゼンスが有効になっている場合、電話機 1 に表示されます。

```
Router(config)# ephone 1
Router(config-ephone)# presence call-list
```

関連コマンド

コマンド	説明
allowwatch	Cisco Unified CME に登録された電話機のディレクトリ番号を、プレゼンスサービスでウォッチできるようにします。
blf-speed-dial	Cisco Unified CME に登録された電話機のスピードダイヤル番号の BLF モニタリングを有効にします。
presence	プレゼンスサービスを有効にして、プレゼンス設定モードを開始します。
showpresenceglobal	プレゼンスサービスの設定情報を表示します。

presence enable

着信プレゼンス要求を許可するには、SIP ユーザエージェント設定モードで **presenceenable** コマンドを使用します。受信するリクエストをブロックするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

プレゼンス有効にする
いいえプレゼンス有効にする

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

受信プレゼンス要求はブロックされています。

コマンド モード

SIP UA 構成 (config-sip-ua)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(11)XJ	このコマンドが導入されました。
12.4(15)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(15)T に統合されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにより、ルーターは内部ウォッチャーおよび SIP トランクからの着信プレゼンス要求 (SUBSCRIBE メッセージ) を受け入れることができます。発信するプレゼンス要求には影響しません。

例

次の例は、着信プレゼンス要求を許可する方法を示しています。

```
Router(config)# sip-ua
Router(config-sip-ua)# presence enable
```

関連コマンド

コマンド	説明
allowsubscribe	内部ウォッチャーが外部プレゼンス エンティティ (ディレクトリ番号) を監視できるようにします。
allowwatch	Cisco Unified CME に登録された電話機のディレクトリ番号を、プレゼンスサービスでウォッチできるようにします。
max-subscription	許可される同時監視セッションの最大数を設定します。
showpresenceglobal	プレゼンスサービスの設定情報を表示します。
showpresencesubscription	アクティブなプレゼンスのサブスクリプションに関する情報を表示します。

コマンド	説明
watcherall	外部のウォッチャーが内部のプレゼンス エンティティ (ディレクトリ番号) を監視できるようにします。

pri-group (pri-slt)

チャネライズド T1 または E1 コントローラで ISDN PRI を指定するには、**pri -グループ (-slt)** コントローラ設定モードでコマンドを入力します。ISDN PRI 構成を削除するには、**no** 形式で指定します。

pri-group[タイムスロットタイムスロット範囲[nfas_d[バックアップ|なし|プライマリ][nfas_intrange]][nfas-group number][iuaas-name]]]

いいえ **pri-group**

構文の説明	
タイムスロットタイムスロット-の範囲	PRI グループのタイムスロット値の単一の範囲を指定します。T1 についての許容範囲は 1 23 です。E1 についての許容範囲は 1 31 です。
nfas_d	D チャネルのタイムスロットの動作を指定します。
バックアップ	(オプション)このコントローラーの D チャネルタイムスロットの動作が NFAS D バックアップであることを指定します。
なし	(オプション)D チャネルのタイムスロットが追加の B チャネルとして使用されることを指定します。
プライマリ	NFAS D のこのコントローラーの D チャネル タイムスロットを指定します。
nfas_intrange	プロビジョニングされた NFAS インターフェースの値を指定します。有効な値の範囲は 0 ~ 32 です。
nfas-group number	NFAS グループと NFAS グループ番号を指定します。有効な値の範囲は 0 ~ 31 です。
iuaas-name	非施設関連シグナリング (NFAS) グループを ISDN ユーザ適応層 (IUA) アプリケーションサーバ (AS) にバインドします。

コマンド デフォルト ISDN-PRI グループが設定されていません。

コマンド モード コントローラの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(11)T	このコマンドが導入されました。
	12.2(15)T	このコマンドが Cisco 2420、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco 3700 シリーズで統合されました。Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 ネットワークアクセスサーバ (NAS) プラットフォーム。

使用上のガイドライン `pri-group (pri-slt)` コマンドは、D チャンネルを特定の IUA AS にバインドする別の方法を提供します。このオプションにより、RLM グループを D チャンネル設定の代わりに `pri-group` レベルで設定できます。たとえば、一般的な構成は次のようになります。

```
controller t1 1/0/0
  pri-group timeslots 1-24 nfas_d pri nfas_int 0 nfas_group 1 iua asname
```

pri-group コマンドを入力する前に、ISDN-PRI スイッチタイプと、E1 または T1 コントローラを指定する必要があります。

NFAS を設定する場合、`pri-group` コマンドの拡張バージョンを使用して、ISDN 用に設定された関連するチャネライズド T1 コントローラに次の値を指定します。

- D チャンネル (タイムスロット 24) の制御下に置かれる PRI タイムスロットの範囲を指定します。
- タイムスロット 24 で実行される機能 (プライマリ D チャンネル、バックアップ、またはなし); 後者は B チャンネルとしての使用を指定します。
- 特定の D チャンネルの制御下にあるインターフェイスのグループ ID 番号です。

NFAS グループを IUA AS にバインドするには、`iua` キーワードが使用されます。

D チャンネルを IUA AS にバインドするとき、`as-name` は、IUA 構成中にセットアップされた AS の名前と一致する必要があります。

メディア ゲートウェイ コントローラ (MGC) の PRI グループを変更する前に、まず D チャンネルをシャットダウンする必要があります。

以下は D チャンネルをシャットダウンする方法を示します:

```
Router# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Router(config)# interface Dchannel3/0:1
Router(config-if)# shutdown
```

例

次の例では、1 つのチャネライズド T1 コントローラで NFAS プライマリ D チャンネルを構成し、D チャンネルを IUA AS にバインドします。この例では Cisco AS5400 を使用し、T1 に適用します。T1 は 24 タイムスロットを持ち、主に北米と日本で使用されます。

```
Router(config-controller)# pri-group timeslots 1-23 nfas-d primary nfas-int 0 nfas-group
  1 iua as5400-4-1
```

以下の例は E1 に適用されます。E1 には 32 のタイムスロットがあり、世界の他の地域で使用されます。

```
Router(config-controller)# pri-group timeslots 1-31 nfas-d primary nfas-int 0 nfas-group
  1 iua as5400-4-1
```

次の例では、コントローラ E1 のすべてのタイムスロットで ISDN-PRI を設定しています。

```
Router(config)# controller E1 4/1
Router(config-controller)# pri-group timeslots 1-7,16
```

次の例では、**rlm-timeslot** キーワードが自動的に Cisco AS5350 の D チャネルオブジェクトのためのインターフェイスシリアル 4/7:11 (CT3 カードを使用している場合は 4/7:0:11) を作成します。ISDN の D チャネルパラメータの仮想コンテナとして、24 以外のタイムスロットを選択できます。

```
Router(config-controller)# pri-group timeslots 1-23 nfas-d primary nfas-int 0 nfas-group
0 rlm-timeslot 3
```

関連コマンド

コマンド	説明
isdnswitch-type	Cisco 2600 シリーズルーターの PRI インターフェイスを設定して QSIG シグナリングをサポートします。

pri-group nec-fusion

お使いの NEC PBX が Fusion Call Control Signaling (FCCS) をサポートするように設定するには、コントローラ設定モードで **pri-groupnec-fusion** コマンドを使用します。FCCS を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

pri-groupnec-fusion {*pbx-ip-address*}*pbx-ip-host-name* {*pbx-portnumber*}

いいえ **pri-groupnec-fusion** {*pbx-ip-address*}*pbx-ip-host-name* {*pbx-portnumber*}

構文の説明	<i>pbx-ip-address</i>	NEC PBX の IP アドレスです。
	<i>pbx-ip-host-name</i>	NEC PBX のホスト名です。
	pbx-ポート番号	PBX のポート番号。範囲は 49152 から 65535 です。デフォルトは 55000 です。この値がすでに使用されている場合、次に大きい値が使用されます。

コマンド デフォルト PBX ポート番号: 55000

コマンド モード コントローラの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(7)T	このコマンドが Cisco AS5300 に追加されました。
	12.2(1)	POTS ダイアルピアからのセットアップメッセージのサポートを追加するために、このコマンドが変更されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、構成中の PBX が NEC PBX で、それが QSIG シグナリングではなく、FCCS を実行するように構成している場合にのみ使用されます。

例 次の例では、この NEC PBX に FCCS を使用するように指示しています:

```
pri-group nec-fusion 172.31.255.255 pbx-port 60000
```

関連コマンド	コマンド	説明
	isdnprotocol-emulate	NT (ネットワーク) または TE (ユーザ) 機能をエミュレートするために、BRI 音声ポートまたは PRI インターフェイスのレイヤー 2 およびレイヤー 3 ポートプロトコルを設定します。
	isdnスイッチタイプ	Cisco AS5300 ユニバーサル アクセス サーバの PRI インターフェイスを構成して、QSIG シグナリングをサポートします。

コマンド	説明
showcdapi	CDAPI を表示します。
showrawmsg	要求されたコンポーネントが所有する生のメッセージを表示します。

pri-group タイムスロット

チャネライズド T1 または E1 制御装置上の ISDN PRI グループを指定し、ISDN PRI シグナリングタイムスロットを解放するには、**pri-group** タイムスロット コマンドをコントローラ設定モードで使用します。ISDN PRI 構成を削除または変更するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

pri-group タイムスロット タイムスロット範囲 [**nfas_d** {バックアップ
nfas_intnumber **nfas_groupnumber** [サービス **mgcp**] | なし **nfas_intnumber** **nfas_groupnumber** [サービ
ス **mgcp**] | プライマリ **nfas_intnumber** **nfas_groupnumber** [**iuaas-name** | **rlm-groupnumber** | サービス
mgcp]} | サービス **mgcp**] [**voice-dsp**]
いいえ **pri-group** タイムスロット タイムスロット範囲 [**nfas_d** {バックアップ
nfas_intnumber **nfas_groupnumber** [サービス **mgcp**] | なし **nfas_int** 数 **nfas_group** 数 [サービス **mgcp**] |
プライマリ **nfas_intnumber** **nfas_groupnumber** [**iuaas-name** | **rlm-groupnumber** | サービス **mgcp**]} |
サービス **mgcp**] [**音声 dsp**]

構文の説明

タイムスロット範囲	T1 または E1 コントローラの ISDN PRI グループを構成するタイムスロットの値または範囲の値。範囲を指定するにはハイフンを使用します。 (注) コンマで区切られたタイムスロットのグループ (例、1-4,8-23) も使用できます。
nfas_d	(オプション) ISDN PRI D チャネルの動作を設定します。
バックアップ	D チャネルのタイムスロットは、非施設関連信号 (NFAS) D のバックアップとして使用されます。
サービス mgcp	(オプション) サービス タイプを Media Gateway Control Protocol (MGCP) サービスとして設定します。
なし	D チャネルのタイムスロットは、追加の B チャネルとして使用されません。
プライマリ	D チャネル タイムスロットは NFAS D プライマリとして使用されます。
nfas_intnumber	プロビジョンされた NFAS インターフェースを値として指定します。NFAS インターフェースの範囲は 0 から 44 です。
nfas_groupnumber	NFAS グループを指定します。NFAS グループ番号の範囲は 0 から 31 です。
iuaas-name	(オプション) ISDN User Adaptation Layer (IUA) アプリケーションサーバ (AS) 名を設定します。

rlm-groupnumber	(オプション) Redundant Link Manager (RLM) グループを指定し、ISDN PRI シグナリングチャンネルを解放します。RLM グループ番号の範囲は 0 から 255 です。
voice-dsp	(オプション) デジタル シグナル プロセッサ (DSP) を使用することで、音声アプリケーション用の ISDN PRI グループを設定します。

コマンド デフォルト

ISDN PRI グループが設定されていません。 **pri-group**timeslots コマンドが **rlm-group** キーワードで設定されると、スイッチタイプは自動的に国内 ISDN スイッチタイプ (primary-ni キーワード) に設定されます。

コマンド モード

コントローラーの設定 (config-controller)

コマンド履歴

リリース	変更
11.0	このコマンドが導入されました。
11.3	このコマンドが強化され、NFAS をサポートするようになりました。
12.0(2)T	このコマンドが Cisco MC3810 マルチサービスコンセントレータに実装されました。
12.0(7)XK	このコマンドが Cisco 2600 および Cisco 3600 シリーズルーターに実装されました。
12.1(2)T	Cisco IOS Release 12.0(7)XK での変更は Cisco IOS Release 12.1(2)T に統合されました。
12.2(8)B	このコマンドは、ISDN PRI シグナリングチャンネルのリリースをサポートするために、 rlm-group サブキーワードで変更されました。
12.2(15)T	Cisco IOS Release 12.2(8)B での変更は Cisco IOS Release 12.2(15)T に統合されました。
12.4(16)b	このコマンドは、NFAS バックアップまたは NFAS none インターフェイスが構成される前に、NFAS プライマリ インターフェイスが構成されるように変更されました。
12.4(24)T	サポートが拡張され、MGCP バックホール モードの NFAS インターフェイスにバックアップ機能が提供されました。このサポートにより、プライマリ インターフェイスに障害が発生した場合、バックアップがアクティブになり、通話を維持できます。
15.1(3)T	このコマンドは変更されました。 voice-dsp キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン

pri-group コマンドは、Signaling System 7 (SS7) リンクの DS0 タイムスロットの使用をサポートします。これにより、同じ T1 または E1 スパン上の SS7 リンクと PRI 音声およびデータペ

ラチャンネルの共存を可能にします。これらの構成では、コマンドは音声アプリケーションに適用されます。

SS7 対応の VoIP 構成で RLM グループが構成されると、デジタル加入者線 (DSL) インターフェイス上の ISDN シグナリングに割り当てられた High-Level Data Link Control (HDLC) リソースが解放され、シグナリングスロットがベアラ チャンネル (B24) に変換されます。D チャンネルは IP で実行されます。選択した D チャンネルのタイムスロットは、**isdnrlm-group** インターフェイス設定コマンドを使用して、NFAS グループを設定することができます。

NFAS により、単一の D チャンネルが複数の PRI インターフェイスを制御することができます。単一の D チャンネルを使用して複数の PRI インターフェイスを制御すると、各インターフェイスで 1 つの B チャンネルが解放され、他のトラフィックを伝送できます。バックアップ D チャンネルは、プライマリ NFAS D チャンネルに障害が発生した場合に使用するように構成することもできます。バックアップ D チャンネルが設定されている場合、ハードシステム障害が発生するとバックアップ D チャンネルに切り替わり、現在接続されているコールは接続されたままになります。

NFAS はチャネライズド T1 コントローラでのみサポートされます。そのため、ISDN PRI 対応である必要があります。チャネライズド T1 コントローラが ISDN PRI 用に構成されている場合、NFAS プライマリ D チャンネルのみを構成する必要があります。その構成は、関連する NFAS グループのすべてのメンバーに配信されます。プライマリ D チャンネルに加えられた構成の変更は、すべての NFAS グループメンバーに伝播されます。プライマリ D チャンネルインターフェイスは、構成がメモリに書き込まれた後に表示される唯一のインターフェイスです。

ルーターのチャネライズド T1 コントローラも ISDN 用に設定されている必要があります。ルーターは、AT&T 4ESS、Northern Telecom DMS-100 または DMS-250 スイッチタイプ、または National ISDN スイッチタイプのいずれかに接続する必要があります。

ISDN スイッチは NFAS 用にプロビジョニングする必要があります。プライマリおよびバックアップの D チャンネルは、別々の T1 コントローラで設定する必要があります。それぞれのコントローラのプライマリ、バックアップ、および B チャンネルメンバーは、ルーターおよび ISDN スイッチのものと同一設定を持つ必要があります。コントローラに割り当てられたインターフェイス ID は ISDN スイッチのものと一致する必要があります。

特定のチャンネルまたは PRI インターフェイス全体を無効にすることで、それをサービスから外したり、他の状態のいずれかに移行させることができます。これは、**isdnservice** コマンドを使用してスイッチに渡されます。

NFAS グループに属するコントローラがシャットダウンした場合、シャットダウンされたコントローラ上のすべてのアクティブ コールがクリアされます (コントローラがプライマリ、バックアップ、なしのいずれに設定されているかに関わらず)、そして以下のいずれかのイベントが発生します:

- シャットダウンしたコントローラがプライマリとして設定され、バックアップが設定されていない場合、グループのすべてのアクティブ コールが消去されます。
- シャットダウンしているコントローラがプライマリとして設定され、アクティブな (稼働中の) D チャンネルがプライマリであり、バックアップが設定されている場合、アクティブな D チャンネルはバックアップ コントローラに変更されます。

- シャットダウンされたコントローラーがプライマリとして構成され、アクティブな D チャンネルがバックアップの場合、アクティブな D チャンネルはバックアップ コントローラーとして残ります。
- シャットダウンされたコントローラーがバックアップとして構成され、アクティブな D チャンネルがバックアップの場合、アクティブな D チャンネルはプライマリコントローラーに変わります。

ISDN D チャンネル (シリアル インターフェイス) がシャットダウンしたときの NFAS の予期される動作では、ISDN レイヤー 2 はダウンしますが、ISDN レイヤー 1 はアップしたままにし、インターフェイス全体は、タイマー T309 で指定された秒数後にダウンします。



- (注) プライマリコントローラとバックアップコントローラの間アクティブな D チャンネルの切り替えは、リンクの 1 つが故障した場合にのみ発生し、リンクがアップになったときは発生しません。切り替えが行われると、T309 タイマーがトリガーされます。



- (注) NFAS バックアップまたは NFAS なしインターフェイスを構成する前に、まず NFAS プライマリ D チャンネルを構成する必要があります。この順序が守られていない場合、次のメッセージが表示されます。NFAS バックアップおよび NFAS なしインターフェイスは、プライマリなしでは設定できません。まずプライマリ D チャンネルを設定します。NFAS バックアップまたは NFAS なしインターフェイスが構成された後に NFAS プライマリ D チャンネルを削除するには、まず NFAS バックアップまたは NFAS なしインターフェイスを削除し、それから NFAS プライマリ D チャンネルを削除します。

voice-dsp キーワードは、ISR-G2 (Cisco 2911、Cisco 2921、Cisco 2951、Cisco 3925、Cisco 3925E、Cisco 3945、および Cisco 3945E の 1-Port および 2-Port HWIC) でのみ利用できます。このキーワードは、音声/WAN(VWIC) インターフェイス カードのコントローラ T1 0/1/0 では利用できません。

例

次の例では、PRI および NFAS プライマリ D チャンネル用に T1 コントローラ 1/0 を設定する方法を示します。このプライマリ D チャンネルは、NFAS グループ 1 のすべての B チャンネルを制御します。

```
controller t1 1/0
 framing esf
 linecode b8zs
 pri-group timeslots 1-24 nfas_d primary nfas_int 0 nfas_group 1
```

次に、T1 スロット 1、ポート 0 で ISDN PRI を設定し、タイムスロット 2 から 6 までで音声およびデータベアラー機能を設定する例を示します。

```
isdn switch-type primary-4ess
 controller t1 1/0
 framing esf
```

```
linecode b8zs
pri-group timeslots 2-6
```

次の例では、標準 ISDN PRI インターフェイスを設定する方法を示します:

```
! Standard PRI configuration:
controller t1 1
  pri-group timeslots 1-23 nfas_d primary nfas_int 0 nfas_group 0
  exit
! Standard ISDN serial configuration:
interface serial1:23
! Set ISDN parameters:
  isdn T309 4000
  exit
```

以下の例では、SS7 対応 VoIP の専用 T1 リンクを設定する方法を示します。

```
controller T1 1
  pri-group timeslots 1-23 nfas_d primary nfas_int 0 nfas_group 0
  exit
! In a dedicated configuration, we assume the 24th timeslot will be used by ISDN.
! Serial interface 0:23 is created for configuring ISDN parameters.
interface Serial:24
! The D channel is on the RLM.
  isdn rlm 0
  isdn T309 4000
  exit
```

以下の例では、SS7 対応 VoIP の共有 T1 リンクを設定する方法を示します。 **rlm-group0** 部分の **pri-grouptimeslots** コマンドにより、ISDN PRI 信号チャンネルが解放されます。

```
controller T1 1
  pri-group timeslots 1-3 nfas_d primary nfas_int 0 nfas_group 0 rlm-group 0
  channel group 23 timeslot 24
  end
! D-channel interface is created for configuration of ISDN parameters:
interface Dchannel1
  isdn T309 4000
  end
```

次に、音声アプリケーションオプションを持つ PRI に T1 コントローラ 0/2/1 を設定する例を示します。

```
Router(config)#controller T1 0/2/1
Router(config-controller)#pri-group timeslots 1-24
Router(config-controller)#pri-group timeslots 1-24 voice-dsp
```

関連コマンド

コマンド	説明
コントローラ	T1 または E1 コントローラを設定し、コントローラ コンフィギュレーションモードを開始します。
interfaceDchannel	RLM 構成のために ISDN PRI シグナリングタイムスロットのリリースを必要とする VoIP アプリケーション用の ISDN D チャンネルインターフェイスを指定します。

コマンド	説明
インターフェイスシリアル	ISDN PRI シグナリング用のチャネライズド E1 またはチャネライズド T1 コントローラで作成されたシリアルインターフェイスを指定します。
isdnrlm-group	ISDN が使い始める RLM グループ番号を指定します。
isdnswitch-type	ISDN PRI インターフェイス上のセントラル オフィス スイッチ タイプを指定します。
isdntimert309	アクティブなシグナリングチャンネルがない場合に、T309 タイマーの値を変更してネットワーク接続をクリアし、B チャンネルを解放します。
showisdnnfasgroup	指定した NFAS グループまたはすべての NFAS グループのすべてのメンバーを表示します。

プライマリ (ゲートウェイ会計ファイル)

ファイル会計用に生成された通話詳細記録(CDR)を保存するためのプライマリの場所を設定するには、ゲートウェイ会計ファイル設定モードで**primary**コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの**no**形式を使用します。

プライマリ {FTPパス/ファイル名usernameユーザ名 (username) パスワードパスワード | 統合
ファイルシステムデバイス:ファイル名}
いいえプライマリ {ftp | ifs}

構文の説明	
FTPパス/ファイル名	外部 FTP サーバ上のファイルの名前と場所。ファイル名は 25 文字までに制限されています。
ifsdevice:filename	このルータのフラッシュメモリまたは他の内部ファイルシステム内のファイルの名前と場所。値は、フラッシュやスロット 0 など、ルータで利用可能なストレージデバイスによって異なります。ファイル名は 25 文字までに制限されています。
ユーザ名ユーザ名	認証用のユーザ ID です。
パスワードパスワード	ユーザが認証のために入力するパスワード。

コマンド デフォルト 通話記録は **flash:cdr** に保存されます。

コマンド モード ゲートウェイの会計ファイル設定 (config-gw-accounting-file)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.4(15)XY	このコマンドが導入されました。
	12.4(20)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(20)T に統合されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、ファイルの会計処理中に CDR が保存されるプライマリファイルの名前と場所を指定します。指定したファイル名には、ゲートウェイのホスト名とファイル作成時のタイムスタンプが付加され、一意なファイル名になります。

たとえば、ホスト名が **cme-2821** のルータで **cdrtest1** というファイル名を指定すると、**cdrtest1.cme-2821.2007_10_28T22_21_41.000** という名前でファイルが作成されます。ファイルが作成された時刻は **2007_10_28T22_21_41.000**。

このコマンドで指定するファイル名の長さを 25 文字以内にしてください。これを指定しないと、課金ファイルの作成時に一部が切れてしまう可能性があります。これは、ホスト名およびタイムスタンプを含む完全なファイル名が 63 文字以内であるためです。

このプライマリ端末へのファイル転送が失敗した場合、ファイル会計処理は **最大retry-count** コマンドで定義された回数まで、プライマリ端末を再試行します。その後、**セカンダリ** コマンドで定義されたセカンダリ端末に切り替わります。

プライマリデバイスが利用可能になったときに手動で切り替えるには、**file-acctreset** コマンドを使用します。システムは自動的にプライマリデバイスに切り替えることはありません。

フラッシュが一杯になると、**syslog** 警告メッセージが生成されます。

例

次の例では、アカウントングファイルのプライマリの場所が外部 FTP サーバに設定されており、ファイル名が **cdrtest1** です。

```
gw-accounting file
primary ftp server1/cdrtest1 username bob password temp
secondary flash ifs:cdrtest2
maximum buffer-size 25
maximum retry-count 3
maximum fileclose-timer 720
cdr-format compact
```

次の例は、作成されたアカウントングファイルがどのように命名されるかを示しています。ルーターのホスト名とタイムスタンプは、次のコマンドで指定したファイル名に追加されます。

```
cme-2821(config)# primary ftp server1/cdrtest1 username bob password temp
```

作成されるアカウントングファイルの名前の形式は次のとおりです。

```
cdrtest1.cme-2821.06_04_2007_18_44_51.785
```

関連コマンド

コマンド	説明
file-acctflush	バッファからアカウント ファイルに CDR を手動でフラッシュするします。
file-acctリセット	ファイルアカウントングをプライマリ デバイスに手動で切り替えます。
最大 リトライ回数	セカンダリ デバイスに切り替える前に、ルーターがプライマリ ファイル デバイスへの接続を試みる最大回数を設定します。
セカンダリ	プライマリのロケーションが利用できなくなった場合に CDR を保存するためのバックアップのロケーションを設定します。

プライバシー

RFC 3323 で定義されているグローバルレベルでプライバシーサポートを設定するには、`voice service voip sip` コンフィギュレーションモードまたは音声クラステナントコンフィギュレーションモードで **privacy** コマンドを使用します。RFC 3323 で定義されているプライバシーサポートを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

プライバシー {**pstn** | *privacy-option*[**重大**]} [システム]
 いいえプライバシー

構文の説明	pstn	プライバシーのための既定の公衆交換電話網 (PSTN) ルール (情報は Octet 3a) を使用して、プライバシーサービスがプライバシーヘッダーを実装するように要求します。選択すると、これが唯一の有効なオプションになります。
	プライバシー オプション	<p>グローバルレベルで設定されるプライバシーサポートオプション。 <i>privacy-option</i> 引数には、次のキーワードを指定することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • ヘッダー -- 利用者に関する情報を識別する可能性がある、Session Initiation Protocol (SIP) メッセージのすべてのヘッダーに対してプライバシー保護を要求します。 • History --<i>history-info</i> ヘッダーに保持されている情報が信頼できるドメイン外では非表示になることを要求します。 • id -- ユーザを認証した Network Asserted Identity を信頼できるドメインの外部の SIP エンティティに対して非公開にすることを要求します。 • セッション-セッションディスクリプション中の情報が信頼ドメインの外部で隠されるように要求します。 • user -- プライバシーサービスがユーザレベルのプライバシー機能を提供するよう要求します。 <p>(注) キーワードは、単独で、またはまとめて、または任意の組み合わせで使用できますが、各キーワードは 1 回だけ使用できます。</p>
	重大	<p>(オプション) プライバシーサービスが指定されたサービスを実行するか、またはリクエストを失敗させるよう要求します。</p> <p>(注) このオプションのキーワードは、少なくとも 1 つの <i>privacy-option</i> キーワード (header, 履歴, id, セッション, または user) の後でのみ指定でき、コマンドごとに 1 回だけ使用できます。</p>

システム	プライバシーサポートがグローバル sip-ua 値を使用することを指定します。このキーワードはテナントモードでのみ使用可能で、それがグローバル設定にフォールバックすることを許可します。
------	---

コマンドデフォルト プライバシーサポートが無効になっています。

コマンドモード 音声サービス voip sip 構成 (conf-serv-sip)

音声クラス テナント構成 (config-class)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.4(15)T	このコマンドが導入されました。
	12.4(22)T	history キーワードが追加され、 history-info ヘッダー情報のサポートを提供するために追加されました。
	15.6(2)T および IOS XE デナリ 16.3.1	このコマンドにキーワード system が追加されました。
	Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a	YANG モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン **privacy** コマンドを使用して、RFC 3323 でサポートされている値の Proxy-Require ヘッダーセツトを発信 SIP リクエストメッセージに追加するようにゲートウェイに指示します。

privacy クリティカル コマンドを使用して、Proxy-Require ヘッダーを追加し、値をクリティカルに設定するようにゲートウェイに指示します。ユーザエージェントが、プライバシー拡張機能をサポートしていない中間者にリクエストを送信する場合、リクエストは失敗します。

例

次の例は、プライバシーを PSTN に設定する方法を示しています。

```
Router> enable

Router# configureterminal
Router(config)# voicesservicevoip

Router(config-voi-serv)# sip
Router(config-serv-sip)# privacypstn
```

次に、音声クラス テナント コンフィギュレーション モードでプライバシーを設定する例を示します。

```
Router(config-class)# privacy system
```

関連コマンド	コマンド	説明
	asserted-id	プライバシーレベルを設定し、発信 SIP 要求または応答メッセージで PAI または PPI プライバシーヘッダーを有効にします。

コマンド	説明
通話情報pstnからsipへ	PSTN から SIP への通話の発信情報の処理を指定します。
発信者 ID(voice-service-voip)	ネットワークが提供する ISDN 番号を ISDN 発呼者情報要素スクリーニングインジケータフィールドに渡し、音声サービス voip 設定モードの発信回線識別子から、発呼者名と番号を削除し、または、Remote-Party-ID と From ヘッダーの欠落している表示名フィールドを代替して発信番号の表示を許可します。
voice-classsip プライバシー	RFC 3323 での定義に従って、ダイヤルピア構成レベルでプライバシー サポートを設定します。

プライバシー (補足サービス)

共有回線上の電話がアクティブな通話に参加できないようにするには、補足サービス音声ポート設定モードで **privacy** コマンドを使用します。既定の動作に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

プライバシー {on | off}
いいえプライバシー

構文の説明

on	共有回線上の他の電話がアクティブな通話に参加できないようにします。
オフ	共有回線上の他の電話がアクティブな通話に参加できるようにします。

コマンド デフォルト

noprivacy コマンドは、ポートのプライバシー機能が無効になることを意味します。ポートのプライバシー ステータスを決定するのはゲートウェイではなく、Cisco Unified CM です。

コマンド モード

補足サービス音声ポート コンフィギュレーション モード (config-stcapp-suppl-serv-port)

コマンド履歴

リリース	変更
15.1(3)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

privacy コマンドは、Cisco サービス統合型ルーター (ISR) または Cisco VG224 アナログ電話ゲートウェイなどの Cisco IOS 音声ゲートウェイの Foreign Exchange ステーション (FXS) ポートに接続されたアナログエンドポイントのプライバシーサポートを有効にします。

privacy コマンドを使用して、共有回線上の他の電話がアクティブな通話に参加できないようにします。

例

次の例では、Cisco VG224 のポート 2/4 でプライバシーサポートをオンにする方法を示します:

```
Router(config)# stcapp supplementary-services
Router(config-stcapp-suppl-serv)# port 2/4
Router(config-stcapp-suppl-serv-port)# privacy on
Router(config-stcapp-suppl-serv-port)# end
```

関連コマンド

コマンド	説明
stcappsupplementary-services	補足サービス コンフィギュレーション モードを開始して、FXS ポートに STCAPP 補足サービス機能を設定します。

privacy-policy

グローバルレベルでプライバシーヘッダーポリシーオプションを設定するには、音声サービス VoIP SIP 構成モードまたは音声クラステナント構成モードで **privacy-policy** コマンドを使用します。プライバシーヘッダーポリシーオプションを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

プライバシー ポリシー {**passthru** | **send-always** | **strip** {**diversion** | **history-info**} [システム]
 いいえプライバシー ポリシー {**passthru** | **send-always** | **strip** {**diversion** | **history-info**} [システム]}

構文の説明

passthru	受信したメッセージからプライバシー値を次のコール レッグに渡します。
send-always	受信したメッセージにプライバシー値が含まれていないが、プライバシーヘッダーが必要な場合、値なしのプライバシーヘッダーを次のコールレッグに渡します。
strip	次のコール レッグから受信した Diversion または履歴情報ヘッダーを取り除きます。
diversion	次のコール レッグから受信した宛先変更ヘッダーを取り除きます。
履歴情報	次のコール レッグから受信した履歴情報ヘッダーを取り除きます。
システム	プライバシーヘッダー ポリシー オプションがグローバル sip-ua 値を使用することを指定します。このキーワードはテナントモードでのみ使用可能で、それがグローバル設定にフォールバックすることを許可します。

コマンド デフォルト

プライバシーポリシー設定が構成されていません。

コマンド モード

音声サービス VoIP SIP 構成 (conf-serv-sip)

音声クラス テナント構成 (config-class)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(22)YB	このコマンドが導入されました。
15.0(1)M	このコマンドが Cisco IOS Release 15.0(1)M に統合されました。
15.1(2)T	このコマンドは変更されました。 strip , diversion , and history-info キーワードが追加されました。
15.6(2)T および IOS XE デナリ 16.3.1	このコマンドにキーワード system が追加されました。このコマンドが音声クラステナントで利用できるようになりました。

リリース	変更
Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a	YANG モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン

受信したメッセージにプライバシーポリシーが含まれる場合、**privacy-policy passthru** コマンドを使用して、プライバシー値が1つのコールレグから別のコールレグに確実に渡されるようにします。受信したメッセージにプライバシーに関する値が含まれていないものの、プライバシーヘッダーが必要な場合、**privacy-policy send-always** コマンドを使用してプライバシーヘッダーを[なし]に設定し、メッセージを次のコールレグに転送します。次のコールレグで受信したヘッダーから Diversion と履歴情報を取り除きたい場合は、**privacy-policy strip** コマンドを使用します。すべてのオプションを同時にサポートするようにシステムを構成することができます。

例

次の例では、パススループライバシーポリシーを有効にする方法を示します:

```
Router> enable

Router# configureterminal
Router(config)# voicesservicevoip

Router(config-voi-serv)# sip
Router(config-serv-sip)# privacy-policy passthru
```

次の例では、常時送信プライバシーポリシーを有効にする方法を示します:

```
Router(config-class)# privacy-policy send-always system
```

次の例では、ストリッププライバシーポリシーを有効にする方法を示します:

```
Router> enable

Router# configureterminal
Router(config)# voicesservicevoip

Router(config-voi-serv)# sip
Router(config-serv-sip)# privacy-policy strip diversion
Router(config-serv-sip)# privacy-policy strip history-info
```

次の例は、パススルー、常時送信プライバシーポリシー、ストリップポリシーを有効にする方法を示しています:

```
Router> enable

Router# configureterminal
Router(config)# voicesservicevoip

Router(config-voi-serv)# sip
Router(config-serv-sip)# privacy-policy passthru
Router(config-serv-sip)# privacy-policy send-always
Router(config-serv-sip)# privacy-policy strip diversion
Router(config-serv-sip)# privacy-policy strip history-info
```

次に、音声クラス テナント コンフィギュレーション モードで常時送信プライバシーポリシーを有効にする例を示します。

関連コマンド

コマンド	説明
表明 ID	プライバシーレベルを設定し、発信 SIP 要求または応答メッセージで、PAID または PPID プライバシーヘッダーを有効にします。
voice-classsipprivacy-policy	ダイヤルピア構成レベルでプライバシー ヘッダー ポリシー オプションを構成します。

probing interval

ルーターが送信するプローブメッセージの時間間隔を設定するには、[**プローブ間隔**] コマンドを使用します。間隔をデフォルトの数値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

プロービング間隔[**keepalive** | **negative**] 秒

構文の説明		
	キープアライブ	(オプション)セッションがキープアライブ状態のときのプローブメッセージ間の時間間隔を設定します。範囲は1秒から255秒です。デフォルト値は5秒です。
	ネガティブ	(オプション)セッションがネガティブ状態の場合のプローブメッセージ間の時間間隔を設定します。範囲は1秒から20秒です。デフォルト値は5秒です。
	秒	プローブメッセージ間の秒数。

コマンドデフォルト デフォルトでは、セッションが通常状態の場合のプローブメッセージ間の間隔は120秒、セッションがネガティブ状態の場合のプローブメッセージ間のデフォルトは5秒です。

コマンドモード uc wsapi configuration mode.

コマンド履歴	リリース	変更
	15.2(2)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、ルーターが送信するプローブメッセージ間の時間間隔を設定します。

例 次の例では、通常のセッションに180秒、セッションがネガティブ状態の場合に10秒の間隔を設定しています。

```
Router(config)# uc wsapi
Router(config-uc-wsapi)# probing interval keepalive 180
Router(config-uc-wsapi)# probing interval negative 10
```

関連コマンド

コマンド	説明
message-exchange	プロバイダがメッセージ送信を停止する前の、失敗メッセージ応答の最大数を設定します。
probing max-failure	システムがアプリケーションを登録解除する前に応答なしで送信するメッセージ数を設定します。

probing max-failures

システムがセッションを停止し、アプリケーションの登録を解除する前に、アプリケーションが応答しないプローブメッセージをアプリケーションに送信する最大数を設定するには、**probing max-failures** コマンドを使用します。最大数をデフォルトの数にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

probing最大失敗数 *number*

いいえ **probing**最大失敗数 *number*

構文の説明	<i>number</i> システムがセッションを停止し、アプリケーションを登録解除する前に許可されるメッセージの最大数。値の範囲は1～5です。デフォルトは3です。
-------	--

コマンドデフォルト デフォルトは3です。

コマンドモード Uc wsapi 設定モード

コマンド履歴	リリース	変更
	15.2(2)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、アプリケーションが応答しないプローブメッセージの最大送信数を設定できます。これにより、システムがセッションを停止し、アプリケーションセッションを登録解除する前に送信されるメッセージの数を制限できます。

例 次の例では、失敗メッセージの最大数を5に設定します。

```
Router(config)# uc wsapi
Router(config-uc-wsapi)# probing max-failures 5
```

関連コマンド	コマンド	説明
	メッセージ交換	プロバイダがメッセージ送信を停止する前の、失敗メッセージ試行の最大数を設定します。
	プローブ間隔	プローブメッセージの時間間隔を設定します。

progress_ind

Cisco IOS 音声ゲートウェイで発信ダイヤルピアを設定したり、Cisco Unified Border Element 特定の通話メッセージ中のデフォルトのプログレスインジケータ (PI) をオーバーライドして削除または置換するには、**progress_ind** コマンドをダイヤルピア音声構成モードで使用できます。特定の通話メッセージ中のデフォルトの PI の削除または置換を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

progress_ind { {アラート | callproc} {有効にする *pi-number* | 無効にする | strip [*strip-pi-number*]} | {接続 | 切断 | 進行 | セットアップ} {enable *pi-number* | 無効化} }
 いいえ **progress_ind** {警告 | コールプロセス | 接続 | 切断 | 進行中 | セットアップ}

構文の説明

警告	構成が発信警告メッセージに適用されることを指定します。
コールプロセス	構成が、Session Initiation Protocol (SIP) 183 Session In Progress (Call_Proceeding) メッセージに適用されることを指定します。
接続する	構成が通話接続メッセージに適用されることを指定します。
切断する	構成が通話切断メッセージに適用されることを指定します。
進行状況	構成が通話の進行状況メッセージに適用されることを指定します。
セットアップ	設定を通話設定メッセージに適用することを指定します。
有効にする	指定した通話メッセージタイプで、ユーザが指定した進行状況インジケータの構成を有効にします。
<i>pi-number</i>	既定の PI の代わりに使用される PI を指定します。以下は、呼び出しメッセージタイプに応じた許容可能な PI 値です。 <ul style="list-style-type: none"> Alert、Connect、Progress、および SIP 183 セッション進行中メッセージ: 1、2、または 8。 切断メッセージ: 8。 セットアップメッセージ: 0、1、または 3。
無効にする	指定された通話メッセージタイプの進行状況インジケータの、ユーザが指定した構成を無効にします。
strip	指定された通話メッセージタイプ中のすべてまたは特定の進行状況インジケータを削除するようにダイヤルピアを設定します。 (注) このオプションは、POTS ダイヤルピア上のコール警告メッセージ、または VoIP ダイヤルピア上のコール処理中メッセージにのみ適用されます。

<i>strip-pi-number</i>	(オプション) 特定の呼び出しメッセージから特定の PI のみを削除することを指定します。値は 1、2、8 のいずれかになります。
------------------------	---

コマンドデフォルト

このコマンドは発信ダイヤルピアでは無効になり、着信メッセージで受信されるデフォルトの進行状況インジケータはそのまま引き継がれます (インターセプト、変更、または削除されません)。

コマンドモード

ダイヤル ピア音声構成 (conf-dial-peer)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(3)XI	このコマンドが Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 7200 シリーズ、Cisco 7500 シリーズ、Cisco MC3810、Cisco AS5300、および Cisco AS5800 に導入されました。
12.1(5)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(5)T に統合されました。
12.2(1)	このコマンドは変更されました。POTS ダイヤルピアからのセットアップメッセージのサポートが追加されました。
12.2(2)XA	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に実装されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に実装されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合されました。
15.0(1)XA	このコマンドは変更されました。通話アラートおよび SIP 183 セッション進行中 (Call_Proceeding) メッセージの処理指示 (PI) の削除のサポートが追加されました。
15.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 5.1(1)T に統合されました。
Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a	YANG モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン

発信ダイヤルピアで **progress_ind** コマンドを設定する前に、ダイヤルピアで宛先パターンを設定する必要があります。発信ダイヤルピアの宛先パターンを設定するには、ダイヤルピア音声設定モードで **destination-pattern** コマンドを使用します。ダイヤルピアに宛先パターンを設定したら、ダイヤルピア音声構成モードで **progress_ind** コマンドを使用して、特定の通話メッセージタイプの PI のデフォルトをオーバーライドしたり、置き換えたり、削除することができます。

progress_ind コマンドを使用して、Cisco IOS 音声ゲートウェイの発信ダイヤルピアに置換えの動作を設定したり、VoIP コールの適切なエンドツーエンドシグナリングを確保することができます。CUBE また、このコマンドを使用して、Cisco IOS 音声ゲートウェイ CUBE 上の発信ダイヤルピア上の PI の削除 (ストリッピング) を設定することもできます。例えば、Cisco IOS

SIP ゲートウェイ (または SIP-SIPCUBE) を設定して、別の SIP 183 セッション進行中メッセージを生成しないようにする場合などです。

複数の PI を含むメッセージの場合、**progress_ind** コマンドを使用して設定された動作は、メッセージの最初の PI のみをオーバーライドします。また、逆方向のカットスルーイベント、例えばPIが8のアラートメッセージが進行状況メッセージの前に送信された場合など、進行状況メッセージが送信された後でも、置換PIを構成しても、既定のPIインコールプログレスメッセージは上書きされません。

Cisco IOS 音声ゲートウェイのダイヤルピアのPIオーバーライド設定を無効にするには、ダイヤルピア音声設定モードで **noprogress_ind** コマンドを使用します。CUBE

例

次の例は、POTS ダイヤルピア 3 がコール進行中のデフォルト PI と接続メッセージを上書きし、PI 1 の PI で置き換えるように設定する方法を示しています。

```
Router(config)# dial-peer voice 3 pots
Router(config-dial-peer)# destination-pattern 555
Router(config-dial-peer)# progress_ind progress enable 1
Router(config-dial-peer)# progress_ind connect enable 1
```

次の例では、発信 VoIP ダイヤルピア 1 が SIP 183 Session In Progress メッセージを上書きし、8 の値ですべての PI を取り除くように設定します。

```
Router(config)# dial-peer voice 1 voip
Router(config-dial-peer)# destination-pattern 777
Router(config-dial-peer)# progress_ind callproc strip 8
```

関連コマンド

コマンド	説明
宛先パターン	発信ダイヤルピアで使用される宛先パターン(プレフィックスまたは完全なE.164電話番号)を指定します。

プロトコルモード

Cisco IOS Session Initiation Protocol (SIP) スタックを設定するには、SIP ユーザエージェント設定モードで **protocolmode** コマンドを使用します。設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

プロトコルモード {**ipv4** | **ipv6** | デュアルスタック [**preference** {**ipv4** | **ipv6**}]}

いいえプロトコルモード

構文の説明	
ipv4	IPv4 専用モードを指定します。
ipv6	IPv6 専用モードを指定します。
デュアルスタック	デュアルスタック (つまり、IPv4 と IPv6) モードを指定します。
preference { ipv4 ipv6 }	(オプション) 優先デュアルスタックモードを指定します。IPv4 (デフォルトの優先デュアルスタックモード) または IPv6 のいずれかになります。

コマンド デフォルト プロトコルモードが設定されていません。Cisco IOS SIP スタックは、**no protocolmode** または **protocolmode ipv4** コマンドが設定されている場合、IPv4 モードで動作します。

コマンド モード SIP user-agent configuration (config-sip-ua)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.4(22)T	このコマンドが導入されました。
	15.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 15.1(1)T に統合されました。
	Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a	YANG モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン **protocolmode** コマンドを使用して、Cisco IOS SIP スタックを IPv4 専用、IPv6 専用、またはデュアルスタックモードで設定します。デュアルスタックモードの場合、ユーザは(オプションで)優先するファミリーを IPv4 または IPv6 として設定できます。

特定のモード (例えば、IPv6-only) では、ユーザは任意のアドレス (例えば、IPv4 と IPv6 アドレスの両方) を設定でき、システムはルーターのコマンドを隠したり制限したりしません。SIP は、通話ごとに設定されたモードに基づいて、通信に適切なアドレスを選択します。

たとえば、ドメインネームシステム (DNS) 応答に IPv4 と IPv6 アドレスの両方があり、構成されたモードが IPv6 専用 (または IPv4 専用) である場合、システムはすべての IPv4 (または IPv6) アドレスを破棄し、DNS 応答で受信した順序で IPv6 (または IPv4) アドレスを試します。構成されたモードがデュアルスタックの場合、システムはまず、DNS 応答で受信した順序で、優先

ファミリーのアドレスを試みます。すべてのアドレスが失敗した場合、システムはもう一方のファミリーのアドレスを試みます。

例

次の例では、プロトコルモードとしてデュアルスタックを設定する方法を示しています。

```
Router(config-sip-ua)# protocol mode dual-stack
```

次の例では、IPv6のみをプロトコルモードとして設定する方法を示します。

```
Router(config-sip-ua)# protocol mode ipv6
```

次の例では、IPv4のみをプロトコルモードとして設定します。

```
Router(config-sip-ua)# protocol mode ipv4
```

次の例では、プロトコルモードを設定しないとしています。

```
Router(config-sip-ua)# no protocol mode
```

関連コマンド

コマンド	説明
sipua	SIP ユーザエージェント設定モードを開始します。

プロトコル rlm ポート

RLM ポート番号を設定するには、**protocolrlmport** RLM 設定コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

プロトコルrlmポートポート番号
 いろいろプロトコルrlmポートポート番号

構文の説明	ポート-番号 RLM ポート番号。ポート番号の選択肢については、下の表を参照してください。
-------	--

コマンドデフォルト 3000

コマンドモード
RLM の設定

コマンド履歴	リリース 変更
	11.3(7) このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 基本 RLM 接続のポート番号は、RLM グループ全体で再設定することができます。下の表はデフォルトの RLM ポート番号を一覧表示しています。

表 2: デフォルトの RLM ポート番号

プロトコル	ポート番号 (Port Number)
RLM	3000
ISDN	Port[RLM]+1

関連コマンド	コマンド	説明
	clearinterface	インターフェイスのハードウェア ロジックをリセットします。
	clearrlmgroup	すべての RLM グループのタイムスタンプをゼロにクリアします。
	インターフェイス	サーバの IP アドレスを定義し、インターフェイスタイプを設定し、インターフェイス設定モードを開始します。
	リンク(RLM)	リンクの優先度を指定します。
	retrykeepalive	リンクのダウンが宣言される一定時間前に、連続してキープアライブが失敗することを許可します。
	サーバ(RLM)	サーバの IP アドレスを定義します。

コマンド	説明
showrlmgroupstatistics	RLM グループのネットワーク遅延を表示します。
showrlmgroupstatus	RLM グループのステータスを表示します。
showrlmgrouptimer	現在の RLM グループタイマー値を表示します。
シャットダウン (RLM)	RLM グループ下のすべてのリンクをシャットダウンします。
タイマー	タイムアウト値のデフォルト設定を上書きします。

プロバイダ

サービスプロバイダを設定して有効にするには、**provider** コマンドを使用します。プロバイダを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

プロバイダ [**xcc** | **xsvc** | **xcdr** | **xmf**]
no provider [**xcc** | **xsvc** | **xcdr** | **xmf**]

構文の説明

xcc	(任意) XCC サービスプロバイダを有効にします。
xsvc	(任意) XSVC サービスプロバイダを有効にします。
xcdr	(オプション) XCDR サービスプロバイダーを有効にします。
xmf	(オプション) XMF サービスプロバイダを有効にします。

コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

Uc wsapi 設定モード

uc secure-wsapi

コマンド履歴

リリース	変更
15.2(2)T	このコマンドが導入されました。
15.3(2)T	xmf キーワードが追加されました。
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	xcc および xsvc セキュアモードのサービスプロバイダーのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使ってサービスプロバイダを有効にします。



(注) 有効にできるのは、**xcc** および **xsvc** セキュアモードのサービスプロバイダーだけです。

例

次の例では、XCC サービスプロバイダをノンセキュアモードで有効にします。

```
Router(config)# uc wsapi
Router(config-uc-wsapi)# provider xcc
Router(config-uc-wsapi-xcc)# no shutdown
```

例

次の例では、セキュアモードで XCC サービスプロバイダを有効にします。

```
Router(config)# uc secure-wsapi
Router(config-uc-wsapi)# provider xcc
Router(config-uc-wsapi-xcc)# no shutdown
```

関連コマンド

コマンド	説明
リモート URL	アプリケーションの URL を指定します。
ソースアドレス	プロバイダの IP アドレスを指定します。
uc wsapi	ノンセキュア Cisco Unified Communication IOS サービス設定モードを開始します。
uc secure-wsapi	セキュア Cisco Unified Communication IOS サービス設定モードを開始します。

プロキシ h323

ルーターのプロキシ機能を有効にするには、グローバル設定モードで **proxyh323** コマンドを使用します。プロキシ機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

プロキシh323
いいえプロキシh323

構文の説明 このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンドデフォルト Disabled

コマンドモード グローバル設定

コマンド履歴	リリース	変更
	11.3(2)NA	このコマンドが Cisco 2500 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズに追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用してマルチメディアインタフェースが有効になっていない場合、またはゲートキーパーがない場合、プロキシを開始することで、これらのリソースを見つけようとして、マルチメディアインタフェースとゲートキーパーが検出されるまで、通話は受け付けられません。

例 次の例では、プロキシ機能をオンにします。

```
proxy h323
```

プロキシ(メディアプロファイル)

CUBE WebSocket プロキシサーバの IP アドレスまたはホスト名を設定するには、メディアプロファイル設定モードで **proxy** コマンドを使用します。設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

プロキシ {ホストホスト ポート ポート | ipv4 IP アドレス ポート ポート}
no proxy {ホストホスト ポート ポート | ipv4 IP アドレス ポート ポート}

構文の説明	ホスト	WebSocket プロキシサーバのホスト名です。
	ipv4 IP アドレス	WebSocket プロキシサーバのホスト IP アドレスです。
	port port	WebSocket プロキシサーバのポートです。

コマンド デフォルト デフォルトでは無効になっています。

コマンド モード メディア プロファイル コンフィギュレーション モード (cfg-mediaprofile)

コマンド履歴	リリース	変更
	Cisco IOS XE Bengaluru 17.6.1a	このコマンドは Cisco Unified Border Element に導入されました。

使用上のガイドライン WebSocket 音声認識サーバと CUBE の間にプロキシがある場合、メディアプロファイルでプロキシの IP アドレスまたはホスト名を設定する必要があります。 **proxy** コマンドは、プロキシサーバのホスト IP アドレス、またはメディアプロファイル設定モードでホスト名を設定します。

プロキシサーバが設定されている場合、WebSocket 接続はプロキシサーバとの間で確立される必要があります。スピーチサーバとの直接接続を確立することはできません。



(注) **ポート** はオプションの設定パラメータです。

例 以下は、における プロキシ(メディアプロファイル) CUBE の設定例です:

```
router(cfg-mediaprofile)#proxy ?
host WebSocket proxy server hostname
ip WebSocket proxy server IP address

router(cfg-mediaprofile)#proxy host
router(cfg-mediaprofile)#proxy host abc.com ?
port WebSocket proxy server port
<cr> <cr>

router(cfg-mediaprofile)#proxy host abc.com port ?
```

```

<0-65535> proxy server port

router(cfg-mediaprofile)#proxy host abc.com port 3578

router(cfg-mediaprofile)#proxy ipv4 ?
A.B.C.D Specify IP address of proxy server

router(cfg-mediaprofile)#proxy ip 1.1.1.1 ?
port WebSocket proxy server port
<cr> <cr>

router(cfg-mediaprofile)#proxy ip 1.1.1.1 port ?
<0-65535> proxy server port

router(cfg-mediaprofile)#proxy ip 1.1.1.1 port 3456

```

関連コマンド

コマンド	説明
メディアプロファイルストリームサービス	CUBEでストリームサービスを有効にします。
接続(メディアプロファイル)	メディアプロファイルのアイドルタイムアウトと呼び出ししきい値を設定します。
source-ip(メディアプロファイル)	WebSocket 接続のローカルソース IP アドレスを設定します。
メディアクラス	ダイヤルピアレベルでメディアクラスを適用します。

パルス桁検出

通話開始時のパルス桁検出を有効にするには、音声ポート設定モードで **pulse-digit-detection** コマンドを使用します。パルス番号の検出を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

パルス桁検出
no pulse-digit-detection

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

パルス桁検出が有効になっています。

コマンド モード

音声ポートの設定 (config-voiceport)

コマンド履歴

リリース	変更
15.0(1)M	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

外国交換局 (FXS) の音声ポートで、**no pulse-digit-detection** コマンドが設定されていない場合、コール開始時のパルスダイヤル検出は無効になります。既定では、パルスダイヤル検出は有効になっています。



(注) 発信通話の開始時に、機器が誤ってパルスダイヤルを生成した場合にのみ、ユーザは **no pulse-digit-detection** コマンドを設定する必要があります。

例

次の例では、音声ポート 2/0/0 でパルスダイヤル検出を無効にする方法を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# voice-port 2/0/0
Device(config-voiceport)# no pulse-digit-detection
Device(config-voiceport)# end
```

関連コマンド

コマンド	説明
タイミングパルス	指定された音声ポートのパルスダイヤル速度を指定します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。